

国政府ノ対支問題処理上ニ於テモ大ニ考慮ヲ加フベキ所ナルヘク而シテ本使ノ卑見ニテハ帝國ガ積極的行動ニ出ヅヘキ氣運ハ当ニ熟セルモノト考フ若シ尚拱手為ス所ナク、一部論者ノ唱フルガ如ク支那ノ形勢ヲ窮極迄紊亂セシメ外國政府ノ泣付キ来ル時機迄手ヲ下サザルヲ得策トストノ意見ハ一見妙ナルガ如キモ帝國ニ於テ極メテ遠大ナル着眼ト最モ鞏固ナル決心ヲ有シ同時ニ始メヨリ着々機宜ニ処スル布置成算ノ確立シ居ラザル限り本使ノ見ル所ニテハ此ノ辺ガ手ノ下シ所ナルベク若シ此ノ儘内外人一般ノ切望ト期待トヲ無視シ形勢ノ紊亂スルガ儘ニ放任スルニ於テハ帝國ハ自然其ノ責任ヲ負担セザルベカラザルノミナラズ行詰リ手ヲ出ス場合ニ於テハ極メテ大ナル責任ト容易ナラサル困難ヲ自覺セザルベカラザルニ至ラント信ズ況シテ南方獨立諸省ノ結束尚未十分ナラズ広東ノ如キ動モスレハ内部ノ軋轢已マザルノミナラズ北方政府ニ於テモ所有手段ヲ以テ其ノ間ニ乗ゼントスルノ趣アリ中部支那ノ形勢モ尚未定マラズ上海方面ノ革命有力者間ノ結束モ亦甚タ堅カラズ剩サヘ北方政府ガ掉尾ノ武力解決ヲ試ミントスルヤノ風評モアリ目下ノ場合財政上此ノ種ノ活動ハ不可能ナルベシトハ想像

或ハ重体ナリト云ヒ或ハ左迄憂フヘキ程ノコトニアラストモ伝ヘラレ其ノ真相判然シ兼ヌルモ新任露国公使ガ今以テ国書捧呈モナサズ又坂西ガ袁ノ達テノ依頼ニ依リ山東ニ赴キ帰京後今ニ面会ノ機ヲ得ザルヨリ察スルニ其ノ容体ハ決シテ輕キモノトハ想像スルヲ得ザルモ望月内報ノ事実ハ尚精探ノ後ニアラザレハ何トモ之ヲ確断スルニ由ナシ尤總統府側ニテハ昨夜来少シク取込ノ模様モアリトノ報道モアリ尚確報ヲ得ルニ努ムヘシ次ニ右ハ望月ガ「モリソン」ヨリ秘密ニ得タルモノ、由ニ付本件ハ其ノ御含ニテ御取扱ヲ請フ

附 各地ノ反袁運動状況

八六 一月二十四日 在中国日置公使ヨリ
石井外務大臣宛

雲南省獨立ニ関スル唐雲南將軍任巡按使ノ照會文送付ノ件

附屬書 民國四年十二月三十一日付、唐雲南將軍及任巡按使ヨリ日置公使宛照會

雲南省獨立ニ関スル件

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 (附) 八六

ニ難カラザルモ南北両面ノ真勢ヲ洞觀スルトキハ我國一部論者ノ考フルガ如ク形勢ハ容易ニ我カ思フ壺ニ嵌リ来ルベシトハ考フルヲ得ズ就テハ内外人一般ニ我行動ヲ期待切望シツ、アル今日ノ機會ヲ捉ヘ速カニ既定ノ計画ヲ進メ支那ニ於ケル指導ノ地位ヲ占ムルニアラザレバ遂ニハ不測ノ事態ヲ現出シ結局帝國ノ作為シタル形勢ニ無用ノ閑人ヲ参加セシメ時局ヲ解決セザルヲ得ザルガ如キ結果ニ至ラズヤト懸念ス

八五 六月五日 在中国日置公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

袁世凱ノ容体ニ関スル情報報告ノ件
第五〇三号

六月五日午前十一時頃望月小太郎ガ「モリソン」ヲ訪問會談中刺ヲ通シタル一來客アリ「モリソン」ハ暫ク之ト面会ノ後只ナラサル顔色ニテ戻来リ望月ニ対シ袁世凱ノ容体ハ甚タ輕カラサル由ナルガ多分死スルナラント語レリト云フ袁ノ病状ニ関シテハ先日來種々ノ風評アリ現ニ今ヨリ凡ソ十日程前總統府内ニ容易ナラサル出来事生シ多分袁ハ死シタルナラントノ噂サヘモ伝ハリ其後病氣ノ旨報セラレ爾來

機密第二一号 (一月二十九日接受)

大正五年一月廿四日

在支那

特命全權公使 日 置 益(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

雲南將軍巡按使照會送付ノ件

雲南將軍唐繼堯同巡按使任可澄ヨリ雲南省獨立ノ件ニ関シ本使並ニ各国公使ニ書面ヲ送付シ来レル次第ハ一月廿四日附往電第八二号ヲ以テ及報告置候処該書面写訳文相添エ茲ニ及送付候間御査閱相成度候也

追テ前記書面ニハ「督理雲南軍務之印」「雲南巡按使印」ノ二印章捺押有之候間為念申進候也

(附屬書)

照 會

雲南將軍行署照會

為照會事照得本國自一九一一年十月十号武昌倡義各省響應実因全国人民久苦君主專制之压抑乃奮起而為政治革命爾時承各友邦認為交戰团体宣告中立及南京臨時政府成立改建民國清帝退位宣布共和均經通告各友邦厥後正式国会成立政府

組織完備又承各友邦陸統承認本国民民易勝感謝不幸本國現任大總統袁世凱謀叛民國自為帝制弘全國進步之人心逆世界文明之趨勢自背受職之誓言不納友邦之勸告本將軍巡按使為遵重國憲擁護共和愛華義師以討國賊願我最親睦之各友邦共守善意之中立互敦永久之睦誼相庇照會

貴公使查照為荷須至照會者

計開

一 帝制問題發生以前民國政府及前清政府以前与各国所訂結之条約均繼續有効賠款及借債均仍旧担認

一本 將軍巡按使勢力範圍内居留之各国人民其生命財產力任保護

一 自帝制問題發生以後袁世凱及其政府与各国所訂結之条約

契約及借款等項民國概不承認

一 各国如有助袁政府以戰時禁制品者查出概行沒收

一如各国官商人民有贊助袁政府為防害本 將軍巡按使之行為時即

反对之

右 照 会

大日本欽命駐京全權公使日置

唐 繼 堯

任 可 澄

条約ハ均シク繼續シテ有効タリ賠償金及借款ハ皆ナ旧ニ仍リ担認ス

一本將軍巡按使勢力範圍内ニ居留スル各国人民其生命財產

ハ保護ヲ力任ス

一 帝制問題發生以後袁世凱及其政府カ各国ト訂結セル条

約、契約及借款等ハ民国皆ナ之ヲ承認セス

一 各国若シ袁政府ヲ助クルニ戰時禁制品ヲ以テスルモノア

レハ查出シテ皆沒收ス

一 若シ各国官商人民ニシテ袁政府ヲ贊助シ本 將軍巡按使ノ行為

ヲ妨害スルモノアル時ハ即チ之ニ反对スヘシ

右照会ス

唐 繼 堯

任 可 澄

八七 一月二十五日

在廣東赤塚總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

廣東ノ雲南討伐軍先鋒隊廣西ニ向ケ進發ノ件

第一八号

(一月二十五日) 廣東ノ雲南討伐軍先鋒隊ハ一四〇〇名数日前廣西ニ向ケ進發シ竜觀光ハ不日發程ノ筈ナリ右ニ付竜

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 (附) 八七

中華民國四年十二月三十一日

九〇

(右和訳文)

民國四年十二月三十一日附雲南 將軍唐巡按使任ノ日置公使宛照会

(千九百十六年一月六日雲南發仏國郵便局消印一月二十一日

北京同郵便局着消印)

本國ハ千九百十一年十月十日武昌義ヲ倡ヘ各省響應ス実ハ全国人民久シク君主專制ノ圧抑ニ苦ミ乃チ奮起シテ政治ノ革命ヲ為シタルナリ当時各友邦ハ認メテ交戰団体ト為シ中立ヲ宣言シ南京臨時政府成立シ民國ヲ改建シ清帝退位シテ共和ヲ宣布スルヤ均シク各友邦ニ通告セリ其後正式国会成立シ政府ノ組織完備スルヤ又タ各友邦ノ陸統承認ヲ承ケタリ本國人民易勝感謝ニ勝ヘン不幸ニシテ本國現任大總統袁世凱ハ民国ニ謀叛シテ自ラ帝制ヲ為シ全國進步ノ人心ヲ弘ヒ世界文明ノ趨勢ニ逆ヒ自ラ受職ノ誓言ニ背キ友邦ノ勸告ヲ納レス本 將軍巡按使ハ國憲ヲ尊重シ共和ヲ擁護スルカ為愛ニ義ヲ舉ケ以テ國賊ヲ討ツ願クハ我カ最親睦ノ各友邦ハ共ニ善意ノ中立ヲ守リ互ニ永久ノ睦誼ヲ敦フセシコトヲ特ニ照会シテ貴公使ノ查照ヲ祈ル

一 帝制問題發生以前民國政府及前清政府カ各国ト訂結セル

濟光ノ昨日本官ニ語ル所在ノ如シ

雲南省ハ自分ノ故郷ニシテ其平和ヲ維持スルハ自分ノ責任ナリ自分ハ已ニ雲南各地ニ散在セル旧緑林ノ兵約一万並ニ自分ノ勢力ノ下ニアル雲南省南部ノ土匪四十七名ニ聯絡ヲ付ケ廣東兵ノ雲南境ニ到著スルヲ待チ同時ニ事ヲ起サシムル計画ヲ立テ居リ其曉ニハ雲南第一師長張子貞モ必ラス自分ニ味方スヘク数月ナラスシテ雲南ハ平定スヘシ数日前廣西兵三千ハ樂平ト称スル雲南境ノ一地点ニ於テ雲南兵二營ト衝突シ之ヲ破レリ貴州ハ劉顯世ノ弟巡按使ニ任セラレタル以來ハ反心ナシ廣東省惠州方面ニ於テハ過般來九度乱党軍ヲ破リ約二千人ヲ殺シタルヲ以テ之ニテ陳炯明等モ明ラメタルヘク廣東ハ当分必ラス無事ナラン云々

竜濟光ノ親近者ヨリ聞ク所ニ依レハ彼ノ四天王ト称セラルル雲南出身ノ四頭領ハ雲南ニアル家族ノ身ノ上ヲ氣遣ヒ雲南討伐ヲ見合ハスヘク竜ニ意見シタルモ竜ハ之ヲ聞入レサリシト云フ竜ノ態度ハ已ニ明ニ決定シ居ルモノノ如シ竜ノ談話ニ徴スルニ革命党ノ人物中彼ノ敬服且同情シ居ルハ岑春煊一人ニシテ岑ニシテ早ク雲南ニ入込ミ竜並ニ廣西ノ陸榮廷ニ説ク所アリセハ或ハ成効セシヤモ計ラレサルモ今日

ニ於テハ時機已ニ遅キカ如シ
在支公使上海香港へ電報セリ

八八 一月二十七日

在漢口瀕川總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

湖北方面ニ於ケル革命党ノ運動ニ関スル件

第四一号

革命党側ヨリ伝聞セル情報ノ大要左ノ通り

武昌南湖ニアル砲兵隊トハ十分ノ聯絡成リ居リ湖北ニ於テハ反旗ハ先ツ該砲兵隊ニヨリ挙ケラルル筈ナリシニ其計画暴露シテ本月二十四日同隊所有ノ砲彈全部ヲ將軍府ニ取上ゲラレタルニ依リ当地ニ於ケル民党ノ運動ハ之カ為一頓挫ヲ来セリト云フ安慶ニハ從來柏文蔚ノ部下駐在シテ運動中ノ所同地方ニ於ケル兵力ハ極メテ微弱ニシテ却テ^{タイイ}兵ノ勢力大ナルヲ以テ^{タイイ}兵ニ付運動ノ歩ヲ進メツツアルモ同地ニアル銃器ノ數ハ合計一万五千ニ過キサルヲ以テ到底獨立行動ヲ為スコト能ハスト云フ最近上海ノ山田純三郎ノ手ヲ經テ当地革命黨員ニ四千兩送附シ来レリ山田ハ此程滿鉄ヲ辞シ真ノ浪人トナリテ近々当地ニ来ル筈ナリト云フ又上海ニ居リシ陳其美ハ廣東ニ向ケ出發シ惠州方面ニ於テ活動

ノ省城附近ノ民軍一万人ヲ既ニ秘密ニ募集著々彈藥供給中ナレバ省城内部ト前後シテ攻撃スル手筈ナリト尚ホ虎門(Wanpao)附近ヲ巡(脱)中ノ海籌(?)ノ砲手二十八名ハ既ニ革命党ニ入ル約束済ミニテ買収金五千弗ノ交附ト共ニ砲台ヲ攻撃スルカ又ハ尠クモ省城攻撃ノ際中立ヲ守ル筈ナリト云フ

陳其美ヨリ当地革命党宛數日前著ノ書信ニ依レハ浙江ノ朱瑞トノ交渉大ニ進ミ右ハ廣東ヨリモ早く成効スルヤモ知レストアリタル由

陸榮廷ノ態度激變ニ付林虎ハ非常ニ激昂シ広西省攪乱ヲ劃策中ナルモ同人ハ広西ニ地盤ヲ有セサルヲ以テ成効困難ナラントノコトナリ

在支公使へ転電セリ

九〇 一月三十一日

在中國日置公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

貴州省ノ独立宣言ニ関スル報告ノ件

第一〇五号

貴州省ハ一月二十七日ヲ以テ独立ヲ宣言シタリトノ報道雲南府ニ到著シタル旨在同地總領事ヨリ電報ニ接シタル趣一

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 (附) 九〇 九一 九二

スル筈ナリト云フ昨日北京ヨリ帰来シタル前湖北選出衆議院劉玉田ノ語ル所ナリトテ伝聞スル所ニ依レハ今回ノ北京暗殺事件ニハ馮國璋及其他一二ノ地方將軍並ニ交通次長麦信堅モ關係シ局面頗ル広ク若シ袁總統ニシテ一々之ヲ搜索スルニ於テハ忽チ一大疑獄ヲ惹起スルニ至ルヘキニ付極力之ヲ揉消サントスルニ力メ居レリ尚劉ハ北京出發ノ際黎元洪ニ面会シ歸郷ヲ勸メタルニ黎ハ今後天下ノ形勢衰ニ不利ナルノ時機ニ至ラハ必ス自分ハ調停ノ役ヲ務メサルヘカラルニ付自分トシテハ寧ロ此ノ時機ヲ俟ツ考ナリト答ヘタル由ナリ右御參考迄ニ

在支公使へ転電セリ

八九 一月三十日

在香港今井總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

廣東、広西、浙江方面ニ対スル革命党ノ運動

計画ノ件

第二七号

革命党広東省城内部ノ攪乱ハ資金到著遅レ旗竿ケヲ延引シ居ルモ二十日以内ニ入金ノ筈ニ付著金後一週間内ニ一挙シテ事ヲ挙クベシト意気込ミ居レリ又朱執信ハ仏山、花県等

月三十一日英國公使ヨリ内報シ来レリ

上海広東漢口長沙重慶へ転電セリ

九一 二月一日

在沙市肥田事務代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

宜昌出發ノ討伐軍ニ関スル件

一月二十九日迄ニ宜昌ヲ出發セル討伐軍ハ第三師殘存部隊全部約五百第七師第二十六團約千二百第六師二十二ヨリ二十三團ノ大部航空隊飛行機四台野砲六十余門重砲十六門十五珊加農砲三門軍馬六百内百頭死癆馬ヲ生ス等ニテ軍馬ハ陸路下流ヨリ尚陸續輸送中軍隊宜昌滞在中蠻行猛烈一般ニ不人氣ヲ極メタリ御參考迄ニ

在支公使ニ転電セリ

九二 二月二日

在香港今井總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

袁世凱暗殺事件ノ首謀者日本行ノ件

第二九号

客月袁世凱暗殺事件陰謀ノ首謀者ナル北京順天醫院長江爾^{ガク}(其父ハ第二侯爵江澣ニテ名古屋医学学校卒業生)陰謀発覚後身ヲ以テ免レ予テ電済光ト知り合ニヨリ漸次電ヲ説得

ノ目的ニテ広東ニ入り込ミ將軍府ニ居ル内北京ヨリ十万弗ノ懸賞附逮捕命令電報到著ヲ聞込ミ日本人ノ助ヲ得テ当地ニ脱走シ李子元ト変名シ本日発ノ静岡丸ニテ日本ニ向ヘリ本人ハ広東駐在小野大尉ヨリ參謀本部要路ニ宛タル紹介状ヲ持チ居ル由

九三 二月三日 在広東赤塚總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

雲南省ノ情況報告ノ件

第二七号

二月三日雲南藤村通訊生來電左ノ通

一般官商民ノ蔡鐸ヲ信スルコトハ案外ニ厚クシテ且一般ニ雲南兵ハ天下ニ敵ナシトノ自負強ク唐都督ハ声望蔡ニ及ハサルモ將軍時代ヨリ養ヒシ勢力アリ部内ノ統一ニハ不足ナシ任巡按使ハ都督制實施以後閑居シ都督府ハ軍人ヲ中心トシテ多數ノ留學生其ノ幹部タルモ都督ヲ初メ其ノ目的カ順潮ニ進ミ居ルタメ稍調子ニ乗リタル傾キアリ山県少佐ハ留學生ニ於テモ同人ヲ敬遠シ打解ケサル態度アリトシ未ダ政府ノ幹部トモ格別ノ聯絡ヲ得サル趣ナリ

独立後直接軍隊ニ關係ナキ文官ノ地位ハ従前ト同シク蒙自

第九号

往電第三号ニ関シ其後当地ニモ革命黨員數名(何レモ重要人物ナラス)上海漢口ヨリ入込ミ外国教会等ニ潛ミ居リ其目的軍隊下級士官等ヲ引入動乱ヲ起サン計画ナルカ如ク彼等ハ右士官等ハ已ニ一味ニ加入ヲ約シ準備成レリト称シ居レルモ実行ヨリハ大部分謠言ニ依ツテ成効ヲ期セントスル彼等ノ言ハ其儘ニハ信シ難シ尙此等黨員ノ外朱廷利(農業勃興会社主任)ノ如キ袁世凱權力ヲ握レル間ハ日支間ノ提携ハ達シ難ク將來支那ヲ白人ノ掌握侵略ヨリ救フ為ニハ日支聯邦ノ外ナシ先ツ以テ袁ヲ倒ササルヘカラス種々密ニ計畫中ナリト云ヒ居レトモ其言フ所多クハ理想ニテ現在ノ時局ニ処シ何等実行ノ決意アルモノト認メラレス又湖南官民中其同意ナキハ勿論朱ハ純革命派トハ直接聯絡ナキカ如シ漢口派遣隊小沢少佐來リ朱ト面会彼ノ理想談ヲ我陸軍ニ電報セシ答ナリ此際關係最モ重カルヘキハ湯將軍ノ態度如何ニアル所其閥歴ヨリ言ヘハ袁派ノ腹心ニアラス且平時ニ於テモ左右ニ密偵ヲ附セラレ居リ袁ノ信任ヲ受ケサルモノナルモ雲貴革命成効未タ確ナラサル今日一身ノ利害ヲ顧ミス遽ニ革命派ニ与スルカ如キハ袁ニ忠ナラサルト同時ニ共和

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 (附) 九四

道尹ハ臨安鼎駐在ノ第二師團長劉祖武之レヲ兼任セリ張士貞ハ都督ノ參謀長トナリ其ノ旧部下タル第一師團兵ノ出征セルニ拘ラス居残レル他面ノ理由ハ第一軍ハ總テ混成旅團ヲ單位トシ師團司令部ヲ設ケサル為メナリト云フモ劉ト共ニ龍濟光トノ關係ヲ不安ニ感シ之レヲ実権ナキ地位ニ置キタリ張並ニ劉ハ義ニ革命軍ニ二心ナク蔡鐸カ袁政府ヲ倒スヘキ告示ヲ出シ其ノ^{シレセキ}ヲ明ニシ目下熱心ニ行動ヲ共ニシツ、アリト云フ

広西ヨリ陸榮廷ノ參謀長劉少清約二十日前ヨリ当地都督府ニ入り一月二十八日当地発帰任セリ途中迄李烈鈞之レヲ見送りタリ雲南府ハ李烈鈞ヲ第二軍司令官ニ任命シ(前電貴州ニ向ヒシ一隊ヲ第二軍トセシハ三軍ノ誤リ)其ノ新編成軍ヲ広西ニ派遣シ其ノ独立ヲ図ル計画ナル由ナレハ右劉並ニ李ノ行動ニ照ラシ陸榮廷ノ態度ハ尚大ニ注意ニ値スヘキカト思ハル

在支公使在上海總領事在香港總領事ヘ転電セリ

九四 二月五日 在長沙深沢領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

湖南省ノ情勢ニ関シ報告ノ件

ニモ忠ナラサル將軍ニ於テ到底アリ得スト思ハル殊ニ武力ヨリ見ルモ岳州武昌ノ押ヘアリ湖北人ヲ以テ人望ナキ湖南ニ臨ミ部下ニ微力ナル併モ北兵アルノミニテ深キ根柢ナキ將軍カ雲南勃發以來湖南民間一部ニ反袁ノ氣勢漸次高リツツアリトハ云ヒ未タ輕拳シ易スカラサルハ明ナリ右ニ付湯將軍カ今ニモ革命派ニ同スル如ク日本新聞紙ニ伝ヘラルルモ右ハ現在ノ所支那革命派得意ノ景氣付ケト見テ可ナリ目下長沙ニ残レル兵數ハ正確ニ知リ難キモ模範營ノ一部並混成旅團ノ一部ヲ合セ約一千八百人野砲二門機關銃八台ニテ省内衡州辰州永州郴州沅州等ニ分遣シタル兵約二千五百外ニ常德ヲ經貴州方面ニ出動シタル兵約一千五百ナリト云フ要スルニ湖南目下ノ形勢ハ湯將軍ニ於テ此先暫クハ省内ノ秩序維持ヲ專ラトシ一方ニ寄身ノ態度ニ出ツルニ相違ナシト觀測セラル因ニ湯將軍ハ前記朱ニ対シ広東ノ形勢ニ發展スルヤ並四川カ革命軍ノ掌中ニ落ルヤ否ヤハ目下ノ時局ニ最モ重キ關係アリト語リ尚袁世凱ノ説示ニ如何ニシテモ動乱ノ長江筋ニ及フヲ防キ以テ日本ニ口実ヲ与ヘサル様スヘシトアリタリト洩セシ由ナリ

右北京漢口上海ヘ符号ノ儲郵送セリ

九五 二月五日 在広東赤塚總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

雲南獨立軍ノ動向等ニ関シ報告ノ件

第二八号

雲南藤村ヨリ左ノ通り 第四号

都督府ノ諮議官タル有力者ノ内話ニ依レハ広西ニ向フ雲南軍ハ国境ニ駐屯スル兵ヲ目下広南県ニ集中シツ、アリ其旅団司令部ハ一月十九日阿迷庁ヨリ陸行セリ其後統隊ハ將校欠員ノ為メ多少遅延スルモ李烈鈞ハ近日出發ノ管貴州ニ対シテ前電ノ外更ニ元ト貴州ノ一旅団長 コウニセ 一千五百名ヲ率ヒ一月二十八日当地ヨリ増援セリ

義キニ叙州ヲ占領セシ一師団ノ一部ハ四川ノ財源タル自流井ノ塩場ヲ占領シ他ノ一部ハ瀘州ニ向ヒ昨日叙寧著ノ予定ナル蔡ノ本隊二個旅団ニ加ハル予定右叙寧ニハ四川ノ第二師団長劉存厚駐屯ス劉ハ四川第一師長周駿並ニ旅団長雷飈ト共ニ当地都督ニ款ヲ通シ居レハ蔡ノ叙寧着報ト共ニ四川ノ運命トセラル

熊克武ハ独立後当地ヨリ四川ニ入り將軍陳宦ハ当地ニ対シテハ都合好キ消息ヲ泄ラシ居ルモ信用シ難シ雲南政府銀行

無根ノコト、ハ思料スルモ真相承知シ度キニ付内探ノ上電報アリタシ

九七 二月七日 在中國日置公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

英國公使ノ調停説ニ関シ回電ノ件

第一一九号

貴電第五五号ニ関シ二月七日英國公使來訪ノ際斯々ノ風説アルカ右ハ事實無根ナルヘシトハ思料スルモ支那側ヨリ何等似寄リノ申出ニテモアリタルヤト尋ネタルニ付断シテサルコトナシト明白ニ否認セリ本件風説ハ元ト上海ノ一二新聞ニ依リ流布セラレタルモノニテ当地ニ於テモ一時噂ニ上リタルコトアルカ右ハ察スルニ在雲南英國總領事カ事變当初唐繼堯等ニ各省ノ情況ヲ説キ事ヲ挙クルノ不利ナルコトヲ論シタル消息カ誇大ニ伝ハリタルモノニアラスヤト存セラル

(奉天発 二月八日、前一〇、〇五)

九八 二月九日 在中國日置公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

日本ヨリ飛行機一台雲南軍ニ売却ノ報ニ付取

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 (附) 九七 九八 九九

發行ノ紙幣三五万円並ニ数月前開業セシ殖辺銀行ノ紙幣五十万円ハ共ニ信用アリ又北京ヨリ開業準備ノ為メ送り来シ中国銀行紙幣二百万円ハ当地ニ於テ印刷中ノ五十錢以下ノ同銀行ノ偽造紙幣アリ共ニ当地ノ信用ナキカ為メ之ヲ四川ニ於テ使用スル筈

南洋ヨリノ現銀ハ李烈鈞ノ分ヲ加ヘ三十万円ナリ塩税関稅ハ未タ協議纏ラスト云フ兎ニ角雲南人ハ成効ヲ確信シ從テ政府紙幣ノ信用厚ク現銀ト開キヲ生セサルニ見ルモ当分ハ財政支ヘラルト思料セラル

雲南ニハ六ミリハノ外数種ノ小銃アリ彈藥一百五十万発ニ過キス共ニ補給ノ途ナシ

北京、上海、香港ヘ転電セリ

九六 二月五日 在広東赤塚總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

英國公使ノ袁世凱及雲南側間調停説ノ真相内探方ノ件

第五五号

過日來在支英國公使袁世凱ノ依頼ヲ受ケ雲南側トノ間ニ立チテ調停ノ措置ヲ執リツ、アリトノ新聞電報アリ右ハ勿論

調方稟請ノ件

第一二三号

英國公使ヨリ二月七日外交部ヨリ部員ヲ英國公使館ニ遣ハシ在東京陸公使ノ電報ニ依レハ日本某製造家ハ五十馬力ノ飛行機一台ヲ雲南軍ニ売却シタル趣ナルヲ以テ右香港通過ノ際差押ヘル様願ヒタシト申出タルニ付右ハ何等カノ誤解ナラント答ヘ置キタルカ本使ニ於テ心当リナキヤト尋ネ越シタルガ何等承知スル所ナシト答ヘ置キタリ本件ノ事實ノ有無御取調ノ上電報アリタシ

(奉天發 二月九日、後三、四〇)

九九 二月十二日 在広東赤塚總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

雲南獨立政府ノ対日感情ニ関シ報告ノ件

第三九号 二月十二日

雲南藤村ヨリ左ノ通り

第九号 二月十日

獨立政府ハ袁ノ民意ニ戻リ帝制ヲ實施シタルト共ニ外国ノ干涉ヲ招キタル外交失敗ヲ難シ之ヲ獨立ノ趣旨トナシ居ルハ其宣言ニ明カナル所尚其機關新聞モ袁ヲ難スルト共ニ日

本ノ野心ニ付往々筆ヲ弄シ民心収攬ノ具ニ供シツツアリ之レ当地ハ直接日本ノ勢力ヲ感シ居ラサル為メ唯其名ヲ美ニスルニ専ラナルト且目下ノ小成効ニ慢心シ他日ノ困難ヲ顧ミルニ暇ナキニ起因スル所ナルモ亦日本カ利権ヲ得テ袁ヲ援クル懸念ヲ以テ本官等ニ対シテモ大ニ警戒シ較モスレハ対日悪感ヲ増成スヘキ傾アリ本官ハ蔡並ニ唐ノ腹心ノモノニ対シ機關新聞ノ右等記事ハ独立軍ノ穩当ト認メ居ル所ナリヤト警告シタルニ其然ラサルヲ弁シ唐繼堯ニ注意スヘキヲ繰返シ居タルモ独立軍ニシテ今後多大ノ困難ニ遭ハサル限リ實際ノ対日感情ハ改マラザルヘシト思考ス

熊克武並ニ其部下ハ四川省瀘州ノ北ナル榮昌並ニ隆昌ノ軍隊ヲ動カシ重慶ニ向ケ既ニ出發セリト云フ

往電第四号ノ貴州ニ向ヘル コウツツセイ ノ一部ハ途中ヨリ道ヲ變テ広西ノ西北ナル興義縣ニ向ヘリトノ確報アリ

在支公使在上海總領事在香港總領事ヘ電報セリ

大久保大阪府知事ヨリ
内務省湯淺警保局長警視總監及千葉縣知事各宛

一〇〇 二月十七日

中國革命党ノ本邦人ヨリ飛行機買入ニ関シ調査ノ件

右者大正元年頃大阪輜重兵第四大隊(輪卒)満期除隊後飛行機ノ研究ニ従事シ當時大阪市東区本町飛行機製造者森田利兵衛ヨリ森田式發動機ヲ譲リ受ケ飛行機ヲ組立テ自己ノ出生地ヲ紀念セム為メ之ニ惠美須号ト命名シ大正二年以来千葉県稲毛海岸ニ於テ専ラ之カ研究ヲ重ネ居リシ処先般來飛行機製造所設置ノ目的ヲ以テ其ノ技倆ヲ一般ニ示スヘク客月八日始メテ東京訪問飛行ヲ為シ爾來着々同所ニ於テ總テノ準備ヲ為シ居ル趣ナルモ同人ハ近時曾テ帰阪シタルコトナク当地ニハ家族数名居住セルモ該器売買交渉ノ件ニ関シテハ同人ヨリ未タ何等通信ニ接セサル模様ニテ從テ其關係者等不明ナリ(了)

(大正五年二月十六日)

雲南軍ニ飛行機売却ノ件

雲南軍ニ飛行機売却云々ノ件調査スルニ大阪市恵比寿町飛行機製作所ニテ製作セル複葉五十馬力飛行機恵比寿号持主ニシテ目下千葉県稲毛在住伊藤音次郎廿六年、ヲ客月廿五日神田区表猿栗町一五、万重善七方止宿支那革命黨員朱晴波(安徽省人ニシテ孫支配ノ下)ナル者府下荏原郡新井宿字木原山居住住吉振作(身元調査中)ナル者ト同道訪問シ

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 (附) 一〇一

写

特秘第九八一号

大正五年二月十七日

(二月二十一日外務省接受)

大阪府知事 大久保利武

内務省警保局長 湯淺倉平殿

警視總監、千葉縣知事殿

支那革命党ノ飛行機買入交渉ニ関スル件

大阪市恵美須町飛行機製造所所有ノ複葉五十馬力飛行機恵美須号ヲ支那雲南軍ヘ輸送ノ目的ヲ以テ革命党ニテ買入交渉中ナリトノ聞エアル趣ヲ以テ關係者等事實取調方本月十四日警視(貴)庁官房主事ヨリ当府警察部長ニ電報アリタル件ニ関シテハ翌十五日不取敢調査ノ要領同主事ヘ返電置候処本件ハ左記事實ニ該当スルモノト被認候条此段及通報候也

左記

大阪市南区恵美須町三丁目百五十二番地
平民戸主岩吉二男

伊藤 音次郎

当二十六年

前記恵比寿号ヲ金五千円ニテ買入ノコトニ交渉整ヒタルモ未タ現品ハ交附スルニ至ラスト云フ即チ雲南軍ニ飛行機売却云々ハ叙上ノ事實ニ該当スルモノト認メ引續キ内偵中ニ属ス

註 右写ハ内務省ヨリ外務省ニ送達セラレタルモノナリ

一〇一 二月十八日 在長沙深沢領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

過激派ノ長沙独立計画ニ関シ報告ノ件

第二〇号

二月初漢口ヨリ当地ニ入込ミタル過激党譚蒙一派同志十数名ト共ニ二月十八日午後七時半ヲ期シ城内数箇所ニ火ヲ放チ同時ニ予テ買収シアル軍隊二營ヲ城外ヨリ引入レ一挙將軍巡按使署ヲ襲ヒ場合ニ依リテハ將軍巡按使ヲ害シ独立ヲ宣言スル手配リナル旨右譚ヨリ岡本ニ洩シ居タルカ間際ニ至リテ延期シ二月二十日夜決行ノ答ナリト云フ彼等ハ已ニ湖南討袁共和軍ノ印アル告示等ヲ準備シ居リ右予定ノ日ニ果シテ実行スルヤ確信シ難キモ何レ遠カラス勃発ヲ見ルヤモ計リ難シ不取敢御参考迄ニ

在支公使在漢口總領事ヘ転電セリ

一〇二 二月二十三日 在中国日置公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

四川方面ノ戦況ニ関スル曹汝霖談話ノ件

第一四九号

二月二十三日曹汝霖ハ高尾ニ対シ四川方面ノ戦況思ノ外抄
ラスシテ現ニ納溪ニ於テハ雲南軍ノ占拠セル四ヶ所ノ高地
ノ内辛シテ三ヶ所ヲ奪取シタルモ残りノ一ヶ所ニハ塹壕ヲ
穿テ鉄条網ヲ張り極力防禦ニ努メ居ルヲ以テ容易ニ攻略ス
ルコト難ク又叙州方面ニハ最近四千名ノ雲南増援軍加ハリ
タルヲ以テ勢力中々ニ侮リ難ク且ツ作戦動作共ニ兵法ニ適
ヒ居レリトノ趣ナレハ急速ニ討伐ノ目的ヲ達シ得ルコト覺
束ナキモノノ如ク要スルニ目下重慶ニ向ヒツツアル北軍全
部ノ到着ヲ俟チ徐ロニ進撃スルノ外ナカルヘキカト内話シ
次テ過日來南湖ノ砲兵隊及長沙ノ革命黨暴動ノ事実ヲ語リ
同方面ニ於ケル全般ノ空氣ハ甚タ香ハシカラサル模様ナリ
ト云ヘル趣ナリ

(奉天発 二月二十四日、前一、三〇)

一〇三 二月二十八日 在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

營ハ山東陝西奉天ノ兵ト共ニ第二回雲南討伐軍トシテ出征
ノ命ヲ受ケ居ル由ノ所安徽ノ安武軍ハ兩三日以來続々当地
ニ到着シ其内四營(二千人)ハ已ニ岳州方面ニ向ヒ出発シ
タリ

北京長沙転電済 三日午後四、〇〇

一〇五 三月五日 在中国日置公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

北軍叙州回復ニ関シ報告ノ件

第一七五号

北軍叙州ヲ占領セシトノ報道三月四日總統府ニ著シタル旨
聞込タルニ付念ノタメ英國公使館ニ問合セ置キタル所五日
午後成都重慶兩領事ヨリ右占領事実ナリトノ電報ニ接シタ
ル旨同公使館ヨリ通報シ来レリ
在重慶領事ヘ転電セリ

一〇六 三月六日 在長春山内領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

孟吉林將軍北京政府ノ命ニヨリ軍器輸送スル

ニ付滿鉄ニ準備依頼方ノ件

第一九号

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 (附) 一〇五 一〇六 一〇七

段奉天將軍ハ奮ツテ革軍討伐ノ任ニ当ランコ
トヲ袁總統ニ電請シタル件

第四八号

当館密偵ノ諜報ニ依レハ段上將軍ハ中央政府ノ意ヲ忖度シ
二月廿六日袁總統ニ対シ奮ツテ革軍討伐ノ任ニ膺ラント請
ヒ奉天將軍ノ後任ハ黑竜江將軍朱慶瀾ニ朱ノ後任ハ張作霖
ヲ陞任セシメラレ度キ旨電請セリ尚ホ二月廿七日在京中ノ
張作霖ヨリ其部下タル湯旅団長ニ対シ綏遠都統任命ノ件ハ
再三辞退シテ遂ニ敕許セラレタルコト及三師團ヲ率ヒテ革
命討伐ノ為南下センコトヲ請ヒタルモ奉天ノ治安ヲ顧慮セ
ラレ允許ヲ得サリシヲ以テ此旨我隊ニ飭令スヘキ旨電報ア
リタリト真偽保シ難キモ時節柄何等御參考迄
在支公使ヘ転電セリ

一〇四 三月三日 在漢口瀨川總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

張長江巡閱使及倪安徽將軍部下ノ兵各十營ハ
第二回雲南討伐ヲ命ゼラレタル件

第九五号

長江巡閱使張勳部下ノ兵十營ト安徽將軍倪嗣冲部下ノ兵十

在吉林天野領事ヨリ 第九号

都督宛

吉林孟將軍ハ北京政府ノ命ニ依リ「アイハト」口砲七五珊
山砲彈二八八二「クルップ」口徑七五珊山砲彈四五〇〇合
計七三八二個ヲ北京ヘ輸送スルニ付右長春奉天間ノ輸送ニ
関シ滿鉄ニ於テ準備スル様同会社ニ通知方交渉員ヨリ依頼
アリ然ルベク御取計ノ上回電アリタシ

一〇七 三月二十日 在天津松平總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

天津ニ潜伏セル革命黨ノ挙動ニ関シ報告ノ件

第二〇号

当地ニ潜伏セル革命黨員ノ挙動ニ付テハ注視ヲ怠ラサルカ
「リュウレイチ」等カ公民日報(極密第二一号拙信)ヲ機
関トシテ言論ヲ以テ革命思想ヲ鼓吹スル外孫文一派ノ趙瑾
卿吳非(嘗テ旅団長タリシコトアリ)等ハ東京本部ヨリ密
旨ヲ帶ヒテ過日当地ニ来リ極内密ニ諸方面ニ運動シツ、ア
リテ馬廠並ニ保定ノ軍隊ヲ煽動シ居ル模様アルモ今日迄ノ
処ニテハ密計成立シタリトハ信セラレズ彼等ハ先ツ西南方
面ニ事ヲ拳ントスルモノ、如ク其計画モ按外進捗シ居ル如

シ其他山東省ノ革命党首領邱子厚等ト關係ヲ有スル陳紹業
吳天民等モ山東方面ニ於ケル旗揚ニ関シ内々劃策シツ、ア
ルカ如ク此一派ハ青島ノ我軍憲ト何等カノ關係ヲ有スルモ
ノ、如シ右兩派ノ間ニハ十分ノ聯絡ナク独立ニ運動シ居ル
模様ナリ支那官憲ノ警戒頗ル嚴重ニシテ楊警察厅长ハ部下
ノ巡警二三千ヲ以テ日夜警戒中ナレバ当分当地ノ治安ハ完
全ニ維持セラルヘシト思考ス御参考迄ニ

(奉天經由 三月二十一日、前九)

一〇八 三月二十日 在漢口瀨川總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

湖北省ニ於ケル帝制反對各派ノ現状ニ関シ報

告ノ件

第一一四号

当地ニ在ル帝制反對各派ノ現状ニ関シ調査ノ要領左ノ如シ
目下革命党ハ日本ノ援助ニ依リ其ノ目的ヲ達セントスルモ
ノニシテ当地ニ在リテハ田桐其ノ中心トナリテ専ラ湖北独
立ノ計画ヲ為シ愈々其ノ目的ヲ達シタル曉ニハ孫文ヲ以テ
大總統ト為シ政事上ノ根本的改革ヲ断行シ完全ナル共和政
府ヲ建設セントスルモノナリ

一〇九 三月二十二日 在濟南林領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

山東省内ノ近況報告ノ件

第七号

山東省ニ於ケル時局促進運動ハ近來青島ヲ根拠トシテ漸ク
其緒ニ就カントスルニ至リタルモ事ヲ挙クルニハ尚尠ナカ
ラサル時日ヲ要スヘシ尚地方支那軍警ノ警戒ハ依然嚴重ヲ
極ムルモ一般人民ハ未タ南方ノ事情ヲ詳ニセス平穩ナリ市
況ハ活潑ニシテ雜穀ノ出廻リ多クタメニ先月以來銅錢ノ価
格一割方騰貴シ銀一元ニ付二吊五百文ヲ稱フルニ至レリ
在支公使ヘ転電セリ

一一〇 三月二十五日 在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

奉天官場ノ近況報告ノ件

第六七号

往電第六五号ニ関シ于冲漢ノ鎌田ニ言明シタル所ニ依レハ
段將軍卒倒ノ原因タル実弟ヨリノ書信ハ駐日支那公使ヨリ
袁政府ニ宛テタル日本政府ノ对支政策ニ関スル電報ニ基ク
モノニテ中ニ日本ニテ宗社党ヲ後援シテ滿蒙ヲ独立セシム

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 (附) 一〇九 一一〇 一一一

共和党ハ袁政府ヲ顛覆シテ純然タル共和政治ヲ行ハントス
ルコト革命党ト其ノ目的ヲ一ニスト雖彼等ハ外国ノ干涉ヲ
虞ルト同時ニ日本ニ対シテモ尚猜疑ノ念ヲ挟ムモノナレ
ハ適當ノ機会ニ於テ南北ヲシテ妥協セシメ黎元洪ヲ大總統
ニ推薦セント欲スルモノナリ故ニ馮国璋及段祺瑞等トノ聯
絡ハ比較的容易ニシテ湖南及広東ノ独立ヲ俟チ刃ニ血ヲサ
スシテ湖北ノ独立ヲ宣言セント欲スル計画ニテ当方面ニ於
テハ黎宗嶽熊繼貞等モ専ラ運動シ軍人側ニモ黨員尠カラス
ト云フ

進歩党ノ代表的人物ハ当地ニ來リ居ラスト雖同党ニ於テハ
蔡鍔若ハ岑春煊ヲ以テ大總統タラシメントスルモノニシテ
専ラ雲南軍ニ声援ヲ与フルモノナレハ当地ノ革命黨員ハ今
次ノ帝制反對運動力單ニ雲南軍ノ力ニ依リ成功スルトキハ
孫一派ノ革命党ハ却テ人後ニ立タサルヲ得サルカ故ニ彼等
ハ近來日本カ雲南ニ同情ヲ寄スルトノ説ヲ聞キ頗ニ焦慮シ
テ日本カ雲南軍ヲ援助セスシテ革命党ヲ援助センコトヲ切
望シ居ルモノノ如シ(二十日後六・〇〇)

北京ヘ転電済ミ

ル計画アリトノ情報アリ奉天官場ハ大分恐慌ヲ起シ居レリ
トノコトナリ右御参考迄ニ

在支公使ヘ転電セリ

一一一 三月三十日 在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

袁金鎧曾有翼等ノ張作霖推戴及独立宣言ノ陰

謀ニ関スル情報ノ件

第七四号

元參政ニシテ帝政反對ノタメ辭職セル袁金鎧、元国民党衆
議院議員曾有翼(共ニ第一革命ノ際当地ニ於テ保安会ヲ組
織セルモノ)元衆議院議員タリシ吳景濂等ハ段芝貴ヲ逐出
シ張作霖ヲ戴キ独立宣言ノ陰謀ヲ企テ居ル旨ノ情報アル所
張ハ過般北京ニ於テ袁世凱ヨリ懷柔セラレテ日未タ淺ケレ
ハ容易ニ之レニ応セサルベシト雖一面同人ハ上京中段將軍
カ河南帰德県ノ周鎮守使(目下北京ニ在リ)ヲ招致シ新兵
一旅団ヲ編成セシメントシタル旨聞知シ段將軍ニ対シ多少
不快ノ感アル趣ナレハ他日袁世凱ノ地位ニシテ動搖センカ
或ハ此ノ計画ニ応諾スルヤ計リ難シト思惟セラル尚事実内
探中ナルカ不取敢電報ス

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 (附) 一一二 一一三
在支公使へ転電セリ

一一二 三月三十一日 在汕頭田中事務代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

汕頭ノ独立宣言ニ関スル情報ノ件

第二八号

莫少将ハ広東陸軍歩兵第一團長ノ名ヲ以テ辛亥革命ノ結果
成立セル共和国モ袁氏ノ野心ノ為破壊セラレントシ茲ニ民
意ヲ代表シ雲南貴州都督ノ命ヲ奉シ潮汕地方ヲ占領シ中華
民国五年三月三十日ヲ以テ独立ヲ宣布ス汕頭在住外国人ノ
生命財産ハ条約ニ照ラシ保護スルコト従来ト渝ルコトナキ
ヲ以テ右様承知アリタキ旨及回答ヲ得タキ旨各領事ニ照会
シ来レリ当地ハ何等ノ戦争モナク馬ノ軍隊モ莫軍ノ節制ニ
帰シ秩序ハ漸次恢復セラレツ、アリ
公使へ電済

一一三 四月六日 在香港今井総領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

広東軍艦宝璧、江大等革命軍ニ内応ノ件

第一〇六号 大至急

軍艦宝璧及水雷一艘昨日澳門ニ赴キ徐勤ノ參謀總司令魏邦

一一五 四月七日 在成都大和久書記生ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

北京政府ハ南方独立軍ト和解希望ノ件

第八号

昨日当地交渉員ノ談ニ依レハ北京政府ハ独立軍ト和解ヲ希
望シ独立軍總司令蔡錫モ亦平和ヲ希望シ陳將軍トハ旧知ノ
間ナルヲ以テ過日同將軍ニ電報シ帝政ヲ取消シ其首謀者ヲ
罰セハ平和解決ノ余地アリトノ意ヲ洩シ陳ハ北京政府ノ意
ヲ受ケ数日前將軍ヨリ、^{ライ、リム}兩將官ヲ蔡ノ駐在地永寧ニ派
シ熟議セシメタリ右兩人ハ蔡ト親友ノ間ナリト尚識者間ニ
ハ四川ノ形勢非ナルヲ以テ陳ハ妥協ノ為右兩將官ヲ派シタ
リトモ云フ
北京重慶ニ転電セリ

一一六 四月九日 在南京高橋領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

帝制取消前後ノ馮國璋ノ態度ニ付報告ノ件

第三二号

本官馮國璋ト会見ノ前夜交渉員ノ内話セル所ニ依レハ馮ハ
去ル夏上京ノ節袁世凱カ断シテ帝政ヲ欲セサル旨ヲ明言シ

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 (附) 一一五 一一六

一一四

一〇四

平ヲ乗セ今夕広東著直ニ中流低柱ヨリ觀音山砲台攻撃ヲ初
メ之ヲ相図ニ城内内応兵二千勃発ノ管万一竜濟光白旗ヲ掲
クルモ知ラサル真似シテ攻撃ヲ続ケルコトニ内決セリ右ハ
竜ノ独立ハ誠意ヨリ出テタリト認メサル為ナリ軍艦江大モ
内応済ミ右ノ計画ハ非常ノ錯誤ナキ限り今夜暴発ニ付之ヲ
機トシテ我軍艦ヲ黃埔又ハ広東ニ入レラル様徐勤派ノ譚学
夔(現時竜濟光顧問陸軍少将)ヨリ依頼申出アリ万一二備
フル為我軍艦一艘至急当地迄派遣命令一下直ニ溯江シ得ル
準備アラントヲ希望ス
公使、上海へ電報セリ

一一四 四月六日 在広東赤塚總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

広東独立ヲ宣言ノ旨報告ノ件

第一一四号

四月六日商人ノ切ナル希望アリ予定ニ先タチ只今午後八時
広東ハ独立ヲ宣言ス市中爆竹ノ音雷ノ如シ
右在支公使、在上海、香港、天津總領事及在福州、汕頭、
雲南、厦門領事ニ電報セリ

ナカラ間モナク籌安会ヲ組織シタル不誠実ナル態度ヲ惡ミ
帝政問題進行中ハ何事モ極メテ冷淡ナル態度ニ出テ袁ノ御
機嫌ニ触レ居タルカ過般「モリソン」来訪ノ節帝政ニ反对
ナルコトヲ明言シ且袁克定ヲ喜ハサルコトヲ語リタル所
「モリソン」ヨリ袁ニ告グル所アリ爾来一層袁ノ怒リヲ招
キ居リタルハ事実ナルガ雲南独立後帝政反对ノ声漸ク盛ナ
ルニ至リ袁モ馮ノ忠言ヲ容レサリシヲ悔ユルコトヲ表明シ
馮ニ対スル庄迫モ自然ニ薄ラキ来リ居タルカ帝政取消後ハ
雲南ノ關係更ニ改善サレツ、アリト

馮ノ態度ハ之レヲ帝政取消前後ニ區別シテ觀察スルコトヲ
要スヘシ即チ馮ハ帝制取消前ニ在リテハ南方同志ト全然同
意見ナリシナルヘキモ直接兵力ニ訴フルコトヲナサ、リシ
關係ヨリ自カラ南方同志ト其ノ立場ヲ異ニスルニ至リタル
モノナルヘシ去リナカラ従来存シタル南方同志トノ關係ヲ
無視スルコト能ハサルヘキ立場ニアルモノト見ルヘシ之レ
昨日ノ会見ニ依リテモ窺ハルル所ナリ

交渉員ハ従来馮ニ対シ袁ノ目付役ノ如ク云ヒ做サレ居ルカ
本官ハ種々ナル印象ニヨリ之レヲ信スルコト能ハス尚交渉
員ハ本官ト馮トノ会見ニヨリ耳新シキコトヲ聞キタルヲ喜

一〇五

ヒ且馮国璋ハ徹頭徹尾会談ヲ愉快ニ迎ヘ居タルコトヲ切言シ居タリ

馮ハ会见ニ先チ一応交渉員ヨリ公文ヲ取付ケタルカ右書面ヲ入手スルヤ夜中ニ拘ハラス時間ヲ指定シ来レリ之レ馮カ会见ニ付中央ノ疑惑ニ備フル用意ト見ルヘキ外他ニ意味アリタリトハ愚考セラレス御参考迄ニ

在支公使ニ転電セリ在上海総領事ヘ暗号ノ儘郵送セリ

一一七 四月十二日

在杭州瀬上事務代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

浙江省独立宣布ニ関スル件

第八号

四月十二日日本官発在上海総領事、在支公使宛電報

前電当省独立ニ関シ本日午後三時臨時將軍屈(前巡按使)

ノ名ヲ以テ独立ノ宣布ヲナシタリ是レ孫逸仙一派ノ成功ナルカ如シ朱將軍ハ今朝ヨリ行衛不明トナレリ一般状況ハ極メテ平靜ニ見受ケラル

一一八 四月十二日

在成都大和久書記生ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

四川軍ト南方軍トノ交戦中止セラレタル件

五大統領三名及譚学夔ノ兄譚レイニツ(前ノ中独銀行副行長)

他二名アリ会議中ハ室内ノ会議席ヲ竜ノ兵ニテ取巻キ護衛シ室外ニモ同様保護シ居レル処会議十五分ニシテ突然一発ノ砲声ヲ相図ニ一斉ニ護衛兵発砲シ同時ニチヨウケイヨリ会議所々在地カイチヨウ(島ノ名)ニ向ケ発砲セリ譚学夔王広齡及會議席ニ立チ居リシ民軍ノ首領徐勳派ノロチヨウメイ外三名即死シ譚レイニツ及湯覺頓ノ生死不明徐勳ハ辛フシテ免レタリ竜済光側ハ一人ノ死傷ナシ右ノ會議ハ広東ノ善後策ヲ講スル為ノ重要ナル就中後任都督ノ問題ニ付相談中ナリシカ竜済光ノ兵ハ飽迄竜ヲ置カントシ茲ニ至リタルモノト推測セラル、旨ハ語レリ右ノ暴動ハ竜済光ト予テ打合アリシ結果ナルカ又ハ単ニ護衛兵ノミノ突然ノ暴動ナリシカハ目下ノ処不明ナルモ竜済光側ニ一人ノ負傷ナカリシヲ見レハ事件ノ成行ハ甚タ重大ナルヘク陸榮廷及梁啓超モ予期ノ通広東ニ来ルヤ否ヤスラ未定トナラン

公使、上海ヘ電報セリ

一一〇 四月十八日

在三水太田領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

広西軍ハ東下シ肇慶ニテ広東護国軍ノ艦隊ト

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 (附) 一一〇

第一一七号

陳將軍ノ使者蔡ト会谈ノ結果先ツ一ヶ月ノ休戦ヲナシタル由ニテ目下川南ノ戦ハ中止セラル、信スヘキ情報ニ依レハ陳ハ蔡ト契約シ愈々独立スル事ニ決シ頻リニ準備中ナリト又張參謀長ハ自ラ独立軍ノ統領タラントシ陳ヲ排斥ス許多ノ革命党ハ個々ニ運動ヲ始メ各々首領タラントノ野心アリ其間聯絡ナク内訌盛ナレハ果シテ独立ヲ決行シ得ヘキヤ疑ハシト云フ今ヤ排袁氣風ニ満チ新聞記事モ排袁的態度ヲ公表スルニ至レリ

北京重慶ニ電報済

一一九 四月十三日

在香港今井總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

広東ノ善後策會議中ニ発砲事件アリタル件

第一一七号

広東ニ於ケル昨日事変ノ詳報トシテ會議席ノ隣室ニ在リシ徐勳ノ隨員ガ身ヲ以テ遁レ当港ニ歸リ語ル所ニ依レハ午後三時四十分頃ヨリ會議ヲ始メ列席者ハ正面ニ徐勳其ノ左ニ王広齡(警察庁長)湯覺頓(陸榮廷、梁啓超ノ代表トシテ先着)譚学夔及シンバクヤク(商団々長)アリ其ノ右ニ竜済光ノ

合シタル件

第二号

本官ハ四月十六日広東発同日梧州肇慶間ニ於テ梧州ヨリ下江シツアル陸榮廷及梁啓超ニ面会セル次第ハ在広東總領事ヨリ転電ノ答ナル在広東總領事宛第一、二号ノ通りナルガ陸榮廷ハ広西軍約五千人ヲ率キテ東下シ此日肇慶ニ於テ同地ニ在リシ広東護国軍ノ艦隊大小十一隻ト合セリ翌十七日広西軍及広東護国軍ノ主力ハ三水ニ下リ陸榮廷及梁啓超ハ尚肇慶ニ止マリ形勢觀望中ナリ陸ノ意見ト称セラルルモノハ全ク梁啓超ノ策スルモノニシテ陸ハ其名ト其兵力トヲ梁一派ニ利用セラレツツアルモノノ如シ梁党ノ意志ハ竜済光ガ広東ヲ去ルコトヲ絶対的要件トシ右実行セラルルニ非サレハ平和解決ノ余地ナク已ムヲ得ス兵力ヲ以テ対スヘシトノ堅キ決心ヲ有シ広東都督トシテハ岑春煊ヲ推シツツアルモ是又竜済光ニ対スル一時ノ方便ニシテ南方政府成立ト共ニ岑ハ其用意ヲ為シ広東都督ハ更ニ岑ヨリ推薦セシムル予定ナリ革命派ト竜済光トハ到底融和シ難ク当地ニ於ケル革命派ハ竜ニ対シテ全力ヲ尽シ居リ袁世凱ニ対スル政策ヲ顧慮スルニ違アラス竜済光ニ対スル民心ノ(脱)迄地ヲ去

リシ今日竜ノ広東ヲ去ルハ袁世凱ニ対スル政策ヲ一致進行セシムルコトニ於テ極メテ有利ナルコトト思考ス目下広西軍及広東護国軍海軍ノ主力ハ三水附近ニ在リ来ル二十一日午後十二時迄ニ竜濟光ガ引退ノ旨回答ナキトキハ直ニ広東ヲ攻撃セント揚言シツツアリ

本官ハ目下三水ニ在リ

右在支公使及在上海、香港、広東各総領事ヘ電済ミ

一二一 四月十九日 在南京高橋領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

南方軍側ノ北京政府ニ対スル妥協条件ニ関スル件

第四七号

今回蔡鍔カ承認シタリト称スル妥協条件ハ元々馮国璋ノ発議ニ係ルモノニシテ此程徐段兩人ヨリ馮ニ対シ中央ハ之ヲ許可セル旨並ニ陳宦ハ既ニ蔡ノ同意ヲ得タル旨来電アリ就テハ馮ハ之ヲ見独立ノ各省ニ蔡ハ広東広西ノ兩省ニ対シ各其同意ヲ求メ今ヤ其回答ヲ俟チツ、アリト而シテ其条件ナルモノハ既報ノ通り八ヶ条ヨリ成レリ(一)袁大總統ノ現地位ニ在ルコトヲ承認ス(二)議員ヲ選挙シ国会ヲ開ク(三)奸人ヲ懲

段奉天將軍奉天引揚ノ内情ニ関スル件

秘第四一号

本月二十日秘第四〇号拙電奉天情報ニ依リ段芝貴出發後張、馮、吳、馬ノ四將軍其他協議ノ上保安会ヲ組織シ近ク發表スヘシト報告致シタルガ其後于冲漢張作霖ノ口吻ナリトテ聞ク所ニ拠レハ段ノ引揚ゲハ段ノ窮境ヲ救ヒ旁々中央ニ於ケル軍務及政務ノ一部ヲ担任センカ為ナリ奉天上將軍ノ任命ハ約三週間ノ後ナルベシトノコトナリ
○今日ノトコロ張上將軍代理ハ南北軍ノ形勢ヲ傍觀シ將軍トシテ治績ヲ挙クルニ汲々トシ形勢変化セサル限り急ニ独立ヲ發表スル模様ナキモノノ如シ

一二四 四月二十二日 在漢口瀨川總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

田桐一派ノ拳事計画ニ関シ報告ノ件

第一四五号

最近ニ於テ事ヲ挙クベク準備中ノ田桐一派ノ計画ニ関シ二十一日同人ガ当館員ニ語リタル要領左ノ如シ
三百余名ノ黨員ヲ以テ主力部隊ヲ編成シ之ニ爆彈及小銃獵銃等ヲ携帯セシメ暗夜ニ乗シテ江岸停車場ヲ襲撃シ同地ニ

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 (附) 一二四 一二五

弁ス(四)全国軍隊ハ順ヲ逐ツテ番号ヲ附シ良否ヲ區別セス並ニ徵兵制度ヲ実行ス(五)憲法ヲ定ム其以前ニ在リテハ民国元年ノ約法ヲ用ユ(六)各省將軍巡按使ハ民国四年ノ冬ニ現在シタル通りトス(七)雲南事變發生後四川湖南ニ派シタル北軍ハ一律ニ撤回ス(八)党人ヲ大赦ス右ハ何レモ禁衛軍參謀長ノ内話ニ係ル

北京上海ヘ転電セリ

一二二 四月十九日 在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

段芝貴奉天ヲ出發シタル件

第一三二号

段芝貴ハ予定ノ通り十九日午後一時張作霖初メ多数ノ見送ヲ受ケ瀋陽駅ヲ出發セリ尚段ノ父ハ段張ノ間ニ円満ナル引継ヲ為サシムル為来奉セルモノニシテ明日出發スヘシトノ情報アリ果シテ然リトスレハ段張ノ關係ハ明確ニシテ矢張り袁金鑑等ノ筋書通り運ヒタルモノト認ムル外ナシ在支公使ヘ電報ス

一二三 四月二十一日 中村関東都督ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

駐在セル騎兵工兵ノ陣地ヲ占領シ且ツ其武器ヲ奪ヒ大挙シテ漢陽ヲ襲撃シ同地附近ニ於テ予テ連絡セル軍隊ノ響應ヲ待チ武昌襲撃ニ移ル筈ニテ江中ニ碇泊セル軍艦五隻ノ内四隻ハ既ニ連絡成レルヲ以テ軍艦ヨリモ応援射撃ヲ行ハシムル筈ナリ云々現ニ武漢ノ地ニ在ル軍艦ノ過半数トハ連絡成レリト称シ居ルモ果シテ革命党ト同一行動ヲ取ルヤ否ヤハ疑問ナルヲ以テ成功如何ハ固ヨリ予測シ難キ所ナルモ目下湖北ノ民心ハ次第ニ独立ニ傾キツツアルト同時ニ在省ノ軍人中ニハ昨今王將軍ヲ説キ革命党ニ先タチ独立ヲ宣言セシメント焦慮シ居ル模様アル所只將軍ハ目下四川湖南ニ多数ノ北兵アリ且ツ京漢鐵道ノ輸送自由ナル今日ニ於テ湖北カ能ク独立ヲ維持シ得ルヤ否ヤヲ氣遣ヒテ躊躇シ居ル姿ナレバ今日ニ於テハ湖北ノ早晚独立スルノ已ムヲ得サルハ何人モ予期シ居ル所ナリ而カシテ田桐一派ハ此処數日内ヲ期シテ事ヲ挙ケントテ昨今頻リニ準備ヲ急キ居ル模様ナリ

北京転電済ミ

一二五 四月二十三日 在濟南林領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

山東ニ於ケル革命派ノ運動ニ関シ報告ノ件

第二九号

在青島居正一派カ兵士トシテ雇入レタル支那人五十余名四月廿二日夕刻当地着ノ山鉄ノ汽車ニテ来済シ直ク宿舍ニ入ルト同時ニ支那軍警ノ為メ囲マレ三十余名捕縛セラレタリ当館ノ得タル情報ニ依レハ青島在住ノ革命派ハ尚ホ統一セス箇々別々ノ運動ヲナシ居正一派ハ近日当地ニ於テ事ヲ起ス筈ナリトノコトナルカ当地支那官憲ハ彼等ノ計画ニ付迅速且ツ正確ニ報告ヲ得居ルヲ以テ往電第二八号末段所報ノ如ク成効困難ナルヘシト思考セラルル此際成効セサルヲ知りナカラ事ヲ遂行セシムルハ当地地方官民ノ我方ニ対スル感情上ニ及ホス影響面白カラサルヘキヲ以テ青島軍憲ヲシテ至急彼等ノ輕挙ヲ取締ラシムル方得策ナリト思考ス北京ヘ電報セリ

一二六 四月二十六日 在成都大和久書記生ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

四川省官民ノ排袁氣風ニ関シ報告ノ件

第一八号

屢次報告ノ通当地人ハ一般ニ排袁ノ氣風ニ満チ共和ヲ希望セルガ当地方革命団体ハ何レモ四川人ニシテ排袁のナル民

北京ニ電報セリ

一二七 四月二十九日 在肇慶太田領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

岑春煊ハ兩広護国軍都司令ニ推挙サレタル件

第一八号

本日岑春煊ノ談話ニ依レハ広東各地方独立民軍各司令官ハ李耀漢外十名ノ連名ヲ以テ岑ヲ兩広護国軍都司令ニ推挙スル旨四月廿八日附ヲ以テ推戴書ヲ奉リ竜済光及陸榮廷ヨリモ部下高級軍官ノ名ヲ連ネ岑ヲ兩広護国軍都司令トシテ其節制ヲ受クヘキ旨電報アリ右ノ結果岑ハ本日兩広都司令ノ職ニ就キ名実共ニ兩広ノ軍事財政ノ兩權ヲ把握スルコト、ナリタル由ナリ尚ホ雲南貴州トノ聯絡ハ目下交渉中ニテ岑ハ唐繼堯ヲ四省聯合軍ノ正司令ニ推シ自ラ副司令タランコトヲ主張シツ、アル趣ナルモ是レ唐カ第一ニ旗上ケセシ功ヲ重スルノ意ニ出テタルモノニシテ結局ハ岑カ正司令トナルベク四省聯合モ遠カラス成立スヘキ形勢ナリ

本日竜済光ヨリ都督辭任ノ旨来電アリタルモ四圍ノ状況ヨリ尚ホ暫クハ現職ニ留マレル儘ニテ北伐ノ計ヲナサシムル由ナリ

心ヲ利用シ私利私慾ヲ果サントスル不正分子多ク到底大業ヲ為スノ力ナシ又官吏側ハ自己ノ地位ニ恋々トシテ何等主義ナシ民間有力者ハ排袁熱ヲ有スルモ所謂革命者流ノ手ニテ独立シ為ニ市場ノ紊乱ヲ虞レ何レモ陳宦ニ依リ獨立宣言ヲ希望シ以テ南方ノ勢力ヲ高メ袁ヲ斥ケ共和ヲ維持シ国利民福ヲ策マンストスルモノノ如シ陳ノ態度ハ往電第一六号ノ通而カシテ 雲南特派員ノ言ニ馮国璋ノ袁總統留任請願ノ件ハ袁ノ訓令ニ依リ馮等ノ世人ヲ欺ク手段ニテ陳宦ノ関知セサル所陳宦ハ本月二十四日馮ニ宛テ袁ノ退位ヲ主張シ北京ニ電ヲ要求シタリト云フ又一一般ニ日本ニ対スル意嚮ハ頗ル猜疑心ノ眼ヲ以テ觀察シ我ヲ利用セントスルモ信賴スルノ念ナシ本官当地滞在ハ内外人ノ共ニ注目スル所タリ尚英國領事ハ言語態度頗ル中央政府ニ同情シ革命派カ当地ニ出入スルヲ見テ支那側ニ密告シタリトノ説アリ当地漢字新聞ハ官憲ノ機關ナルニ拘ラス内外新聞ノ排袁の記事ノミ掲ケ且雲南特使カ排袁の激烈ナル談話ヲモ發表シ官憲ノ取締ナク一般ニ歡迎セラレ又成都西北方面ニ跋扈セル護国軍ハ代表ヲ送り陳宦ハ相当ニ待遇シ居レリ以テ当地官民ノ意向ヲ察セラル

北京上海広東香港堀領事ヘ電報セリ

一二八 四月二十九日 在長春山内領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

齊々哈爾地方ニ於ケル滿州旗民ノ排袁行動ニ

関シ報告ノ件

第五〇号

在齊々哈爾二瓶領事ヨリ、第一〇号
当地ニ於ケル滿州旗民間ノ重ナルモノ四名発起トナリ排袁ニ名ヲ藉リテ檄文ヲ散布シ朱將軍ヲ廢シテ当省ノ獨立ヲ図ラントシ四月二十八日当地旗民工芸所ニ大会ヲ開キシガ会衆三十名ニ充タサル間ニ將軍ノ探知解散スル所トナリ師团长許蘭洲ノ調停ニ依リ將軍側代表者内務厅长參謀長ト会见シ將軍ノ批政ヲ摘示シ其ノ立退ヲ強要セルガ解決ヲ見ルニ至ラス結局北京政府ニ電請シテ其ノ裁決ヲ待ツコト、ナレリ為ニ謠言盛ニシテ人心恟々タリ

一二九 四月二十九日 在南京高橋領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

南方派ノ北京政府ニ対スル妥協条件ニ関スル件

第六四号

籍忠寅廿八日来訪シ語ル所ニ依レハ先般發表セラレタル八ヶ条ノ妥協条件ハ馮ニ於テ一応之ニ賛成シタルコトハ事実ナルモ元ト元ト彼レノ本意ニアラス彼ノ決心ハ依然トシテ袁ヲ倒スニアルコトヲ確メタリ馮ハ予ノ到着以前ニ於テモ既ニ此考ヲ以テ各省ニ謀リツ、アリタルカ予ノ到着ニ依リ予等ニ之ヲ形ニ現ハスコトナリタリ彼ハ先般来未独立ノ各省將軍ヘ相共ニ聯合シテ政府ト南方独立諸省トノ調停ニ当ランコトヲ提議シタルカ既ニ各省殆ト全部同意ノ旨ヲ回答シ来タレルニ依リ兩三日中ニ更ニ身体財産ノ安全ヲ保証スル条件ヲ以テ其退位ヲ促スコトヲ前提トシ各省ノ同意ヲ求メ其上ニテ之ニ一致シタル各省ノ連名ヲ以テ政府ニ対シ袁ノ退位ヲ促スヘク万一政府之ヲ肯セサル場合ニハ聯合各省ハ南方諸省ト相携ヘ実力ヲ以テ政府ト対スヘシ馮ハ国家国民ノ為メ出来得ル丈ケ平和手段ヲ以テ目的ヲ達センコトヲ願フ若シ彼ニシテ一旦独立ヲ宣セハ最早調停の手段ヲ以テ時局ニ処スルノ途ナキニ至ルヘシ彼力敢テ独立ヲ宣セサル全ク之レカ為メナリ彼ハ本案ニ付予メ数省ノ間ニ意思ノ疏通ヲ計リ又政府当局トノ間ニモ或程度迄相談ヲ遂ケタル

北京、香港、堀領事ヘ電報シ上海ヘ郵報セリ

一三〇 四月二十九日 在広東赤塚總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

湖南省永州独立ヲ宣言シタル旨報告ノ件

第一四四号

湖南省永州ノ鎮守使望雲庭ハ四月二十六日独立ヲ宣言シタル趣当地都督府ニ入電アリシ由ナリ

陳炯明、朱執信ノ代表者岑春煊ニ面会シタル結果相互ノ間隔漸ク接近シ陳等ノ希望スル二万ノ民軍ヲ以テ北伐隊ヲ組織スルコトモ若シ自己ノ力ヲ以テ之ヲ為シ得ハ岑ニ於テ何等異議ナキ旨答ヘタル趣ナリ
公使、上海、香港ヘ電報セリ

一三一 五月一日 在成都大和久書記生ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

陳雲南及劉四川ノ兩軍使等ハ袁ガ退位勸告ニ
応ゼザレバ休戦期完了後自由行動ヲ執ルベキ
旨語リタル件

第二〇号

雲南軍使陳光煦及雲南ヨリ帰来ノ当方軍使劉一清等カ本日

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 (附) 一三〇 一三一 一三二

模様ナリ帝政發企人ノ処分ニ就テハ南方トシテ意見ナキニアラサルヘキモ袁カ退位ヲ決行スル以上其生命財産迄モ深ク之ヲ追及セントノ考ハ南方首領ノ間ニハ之レナシ尤モ中間者ノ間ニハ極端ナル意見ヲ有スルモノ之レナキニアラサルカ既ニ首領ノ意見ニ於テ然ル以上事茲ニ解決セラルヘシト信ス尚馮ハ本案ヲ具体的タラシムル迄ニハ一箇月ヲ見込マサルヲ得サルヲ以テ更ニ休戦期間ヲ一ヶ月延長スル様四川陳宣ニ申送ルヘシ議會召集地ハ政府カ本案ヲ承認セハ北京トナスヘク然ラサル場合ニハ南京トナスヘシト又馮ハ主義ヲ以テ進退シ他力ニ余儀ナクセラレテ立ツカ如キコトヲ欲セス漫リニ省内ノ治安ヲ乱シ部分的独立ヲ企ツルモノヲ看過スル能ハス云々

右ハ既ニ多賀中佐カ馮ヨリ直接聞取りタル所ト大差ナク南方側ノ意嚮トシテ籍ノ意見ニ依ルモ大体之ニ一致スヘキ模様ナレハ時局ハ或ハ本案ニテ解決セラルヘキカ

尚籍ヨリ今井總領事ヲ經テ梁啓超ニ又堀領事ヲ經テ唐將軍ニ各馮ト会见ノ結果ヲ報告スル暗号電報ヲ更ニ当方ノ暗号ニ直シ本官ヨリ電報センコトヲ依頼シ来タリタルヲ以テ之ヲ承諾シ置ケリ御含置アリタシ

本官ニ語ル所ニ依レハ陳ハ袁ノ退位ヲ勸告セリ応セザレハ休戦期完了(五月五日)ヲ待ツテ中央ト關係ヲ絶チ自由行動ヲ執ルヘシ馮國璋モ袁ノ退位主張者ニシテ最近蔡鍔ニ密電シタリト

当省旧省議員七十六名聯合ニテ陳ニ独立ヲ迫リシ飛檄文及孫吳等護國軍ノ独立勸告文本日發表セラル目下將軍府ハ多忙ヲ極メ居レリ四川ノ独立ハ実現セラルルモノノ如シ

北京、重慶、漢口ニ電報セリ

一三二 五月五日 在上海有吉總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

陳其美、王統一等ノ上海襲撃計画ニ関スル件

第一〇七号

貴電第一〇四号ニ関シ昨夜呉淞ニテ襲撃セル軍艦ハ策電ニシテ参加セル水兵ハ十七名ナリ右計画ハ陳其美王統一ノ計画ニ出テ兩人ハ終夜山田純三郎宅ニ在リテ指揮ニ当リ陸上ニテモ事ヲ起シ一挙ニ上海ヲ陥シ入ルル積リナリシト見エ王統一ヲ宿泊セシメ居ル実業協會書記長東ヨリ上海ハ明朝陥落スベシトノ説ヲ昨夜中電話ニテ各処ニ伝ヘタル事実アリ右襲撃ニ参加セルモノノ談話ニ依レハ彼等ハ王ヨリ軍艦

ニ多数ノ内応者アルニ付小蒸汽ニテ赴キ乗艦セバ事ナク奪取シ得ヘシト伝ヘテ其言ノ如ク小蒸汽ヲ軍艦ニブツケ火夫二名ヲ残シテ全部乗艦シタルモ支那語ニ通スル者ナク彼是レ押問答中発砲セラレ慌テ、小蒸汽ニ飛乗リ逃出シタルモノノ由ニテ残余ノ八名ハ軍艦中ニ取残サレタルモノラシク二名ノ負傷ハ逃ケカケニ烟突ナドニ当リテ受ケタルモノナリトノコトナリ尚右計画ハ孫文モ確カニ承知ノ上ノコトト認ムベキ理由アリ同人ハ本官面会ノ節王ノ計画ノ無謀ナルヲ王ニモ命令シ商人(?)及水兵等ハ夫々帰国セシムル様命シタリト述ベ居ナガラ此種無謀ノ挙ヲ敢テセシムル等同人及其ノ一派竝ニ之ニ附随セル日本人等ノ過激無謀ハ屢々申進シタル如ク大局ヲ愆マルコト渺カラサル如ク時宜ニ依リテハ少ナクモ日本人等ハ關係者ヲ通シテ日本ニ召還セシメラルルカ又ハ当館ニテ相当ノ処分ニ出ツルノ必要モ生スヘシ支那側ヨリハ何等申出ナキモ巡警事件ニ付本日会見ヲ約セル楊護軍使が突然取込ミノ理由ヲ以テ兩三日延期ヲ申込タルニ見テ何等カ混雜シ居ルモノト認メラル追テ水兵百名ハ明日出帆^{ワッパ} 二九ニ乗船帰国セシムル筈ナリ在支公使ヘ電報セリ

ニ政權反對者ノ征服ノ如キハ容易ナルコトナリ故ニ貴國人ト政府トヲ問ハス此際支那ヲシテ一日モ早ク平和ニ解決セシムルコトニ尽力セラル、コトヲ以テ貴國カ将来支那ニ於テ優勝ナル地位ヲ占ムル所以ノ最良手段ナリト考フ予ハ能ク貴國ヲ知ル故ニ支那人トシテ然ク考フルノミナラス貴國人トシテ然ク考フルナリ云々尚段祺瑞ヲ評シテ曰ク彼ノ考ハ必スシモ不可ナルニアラサルモ彼ハ政治上ノ智識乏シク理解力不十分ナル故政治ノ進行ニ円満ヲ欠ク而シテ彼ハ少クトモ現在ニ於テハ衰ヲ引退セシメサル方針ヲ以テ遣リツ、アリ南京ノ馮モ位置ノ關係上種々ノ説伝ハルモ其内心ハ衰ヲ擁護セントスルモノニアルカ如シ併シ彼等ト雖モ大勢ニ反抗シテ迄衰ヲ擁護セントスルモノニアラサルハ確ナリ貴國カ山東ニ於ケル行動ノ如キハ支那トシテハ概括シテ全國ニ恐慌ヲ起スルニ至ルヘク之カ為メ却テ南北妥協ノ端ヲ開クヤモ知レスト案外樂觀シ居レリ又彼個人トシテハ依然日本公使ノ位置ニアルコトヲ希望スル旨ヲ大總統始メニ述ヘタル由

一三四 五月九日

在雲南都督領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

一三三 五月七日 在北京坂西陸軍大佐ヨリ
田中參謀次長宛(電報)

山東ニ於ケル革命党ノ活動ニ関シ陸公使談話ノ件

坂特電第四十九号

此數日來山東ニ於ケル革命党ノ活動ニ関シ去ル四日歸來セル陸公使今朝小官ニ語ルコト左ノ如シ
武装セル土匪數百ヲ公然特別列車ニテ輸送シ濰縣ヲ攻撃シ而カモ貴國軍隊來リテ城門ヲ開クコトヲ要求シ就中其隊長ハ獨立宣言ヲ勸告スル等ノコトハ支那官吏ノ報告トシテ多少誇大ノ点アルヘキモ大体ニ於テ在青島貴國官憲ノ默許スルコトニアラサレハ出來サルコトナリ貴國ハ何ノ必要アリテ斯ル行動ヲ為サシムルヤ予ハ實ニ了解ニ苦シム抑モ貴國カ東洋ニ於ケル先進國トシテ其發展ヲ計ラシカ為ニハ支那人人心ヲ得ルニアリ然ルニ支那四億萬人ハ決シテ擾乱ヲ希望セス絶對的ニ平和ヲ渴望スルモノナルヲ以テ何レノ時ト場合何レノ人ト國トヲ問ハス支那ヲ平和ニ導クモノニ對シテ尊敬ヲ払ヒ且ツ服從ノ念ヲ起スハ支那國民ノ通有性ナリ今日反袁ノ声熾ナルハ衰カ此要領ニ背キタルヲ以テナリ單

南北妥協祝賀會ニ関シ唐雲南都督談話ノ件

第七〇号

(五月十一日接受)

往電第六八号ニ関シ九日都督ニ面会其真相ヲ確メタルニ右ハ曩ニ雲貴兩広ヨリ在支各國代表者ニ對シ衰ノ總統タル資格ノ喪失並ニ黎元洪が適法ノ大總統タルコトヲ發表シタル宣言(拙電第五八号参照)ニ関シ広東省ヨリ電報發議ニ基キ四省ハ五月十日ヲ以テ人民ニ對シ法律上衰ノ元首タル資格消滅シ黎元洪ヲ元首ト認ムルコトヲ具體的ニ發表スル方法トシテ黎大總統就任祝賀式ヲ舉行スルコトナリ居ルモノニシテ袁黎等ノ意嚮ニ何等關係ナシ當日ハ各會代表者都督府ニ參集新大總統ニ對シ敬礼ヲ行ヒ百一発ノ礼砲ヲ放ツ筈ナリ右ハ四省ニ於テ兼テ計画中ナル適法ノ大總統推戴、獨立各派ノ統一機關タル軍務院ノ設立、委員ノ選任等ニ関スル事項ノ第一着手ニシテ畢竟四省ノ鞏固ナル連結ヲ示シ又一面馮國璋ノ妥協案ニ對シ応諾ノ意嚮無キコトヲ表明スルモノナリト思ハル尚都督曰ク馮カ当方ノ意向ニ頓着ナク妥協ヲ講セントスル態度ヲ示ス今日祝賀會ノ舉行ハ幾分面倒ノ氣味ナルハ自分トシテ多少不本意ノ感無キニ非サルモ四省協同ノ態度宣明上已ムヲ得サル次第ナリ云々

公使済ミ

一三五 五月九日 在濟南林領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

濟南ノ民間各界有志ヨリ治安維持ニ関シ革命

党及山東將軍ニ勸告方決定ノ件

第七二号

当地民間各界ノ有志百余名ハ五月八日午後商埠商務總會内ニ集合シ時局ニ関スル相談ヲ開キ如何ニシテ治安ヲ維持スベキヤヲ議シ一方周村濰縣等ニ代表者ヲ派シテ同地方ノ革命党ト打合セヲ為サシムルト同時ニ他方蘄將軍ニ治安維持ノ為革命党ト調和セシコトヲ勸告スルコトニ決シ貴志大佐ノ手ヲ經テ革命黨員ト折衝スル筈ナリ尚ホ蘄將軍ハ本日午前十時重要文武官吏ヲ召集シテ急遽會議中ナルカ多分独立ニ関スルモノナルヘク從來躊躇決セサリシ蘄ノ独立ニ対スル意嚮ハ大ニ動キツツアルモノノ如キモ唯往電第六六号ノ如ク袁ノ退位果シテ事實ナランニハ独立ヲ宣布スルニ至サルベシト察セラル

在支公使ヘ電報セリ

地方商民ノ交渉事件ハ先例ニ拠リテ当該各省軍民長官ト当該各官長ト之レヲ其ノ地方ニ於テ処理スルヲ除ク外一切ノ外交事件ハ總テ軍務院ニ於テ之レヲ弁理ス若シ夫レ軍務院ノ組織条例及其ノ成立ノ理由ニ至リテハ正式ニ之レヲ照会スヘキモ右不取敢電報ヲ以テ通告ス

北京電報ス

一三七 五月十一日 在成都大和久書記生ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

馮國璋陳宜ノ蔡鍔ニ要求セル休戦延期及成都

地方ノ民心ノ動向ニ関シ報告ノ件

第二五号(延着)

馮國璋陳宜ノ蔡鍔ニ要求セル休戦延期ニ関シ蔡ハ六日附ヲ以テ本月七日ヨリ更ニ一ヶ月ノ休戦ヲ承諾ノ旨陳ニ回答セリ右ニ付雲南側ノ代表者ハ既ニ袁ノ退位ハ動カスヘカラザル事實ニシテ退位後ノ善後策講究中ナレハ休戦延期ハ当然ナリ万一一ヶ月ヲ經テ尚退位セザレバ再ヒ干戈ヲ交ユルニ至ルベシト云ヘルモ実ハ雲南軍モ軍實ニ窮シ戦ノ困難ナル事情潜メルモノノ如シ目下当地ハ謠言甚シク遂ニ家財商品ヲ片付クルモアリ人心恟々タリ從テ金融逼迫シ銀貨暴騰セ

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 (附) 一三七 一三八

一三六 五月十日 在廣東赤塚總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

南方獨立軍ヨリ軍務院成立ヲ電報シ来リタル

件

第一五四号

五月九日附ヲ以テ獨立軍ノ仮政府タル中華民國軍務院ノ正副撫軍長、政務委員長及各撫軍(浙江ヲ除ク)ノ各領領事並ニ香港、仏領印度支那及澳門ノ各總督宛同文電報ノ形式ヲ以テ五月十日左ノ通本官ニ電報シ来レリ

本軍政府ハ適法ノ処置トシテ黎元洪ヲ中華民國ノ大總統トナシタルハ既ニ通告シタル所ナルカ今般特ニ軍務院ヲ設置シタリ軍務院ハ大總統ニ直隸シ各省都督及各都總司令等ハ該院ノ撫軍ニ任シ合議制度ヲ以テ軍國ノ大事ヲ処理シ大總統自カラ職務ヲ執ル能ハサル場合一切ノ國際交渉ハ軍務院ノ撫軍暫ク之レヲ代理ス又軍務院組織條例ニ依リ当然撫軍ニ任シタル下名等ハ唐繼堯ヲ撫軍長ニ岑春煊ヲ副撫軍長ニ各互選シ岑春煊ハ撫軍長ノ職權ヲ摂行シ梁啟超ハ政務委員長ニ補任セラレタリ併シテ暫ク廣東ヲ以テ軍務院ノ所在地ト定メ五月八日右軍務院ノ組織ハ其ノ成立ヲ告ケタリ爾後

リ又土匪ハ益々猖獗シ今ヤ四川全省土匪ノ出沒セサル所ナク本月五日隆昌ニテ四川兵一營俸給ヲ得ントシテ兵變ヲ起シ二日間獨立シタル事實アリ政令行ハレズ地方ノ騷擾極ニ達シ人民塗炭ノ苦ミノ内ニアリ

北京ヘ電報セリ

一三八 五月十一日 在南京高橋總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

時局ニ関スル馮國璋談話ノ件

第八三号

五月十日午後馮國璋カ多賀ニ為シタル談話ノ梗概左ノ如シ第一 余ト段トハ常ニ意見ヲ異ニス今回段祺瑞ハ假令袁退職シテ或ハ一層ノ紛乱ヲ見ルナランモ自身之ヲ引受テ收拾シ得ヘシトノ意見ナルモ余ハ袁退位後ニ於ケル紛糾ヲ防遏シ得ル丈ケ成算ヲ見タル後ニ其ノ退位ヲ求メントスル意見ナリ

第二 余ハ時局ニ処スルニハ假令之ヲ用ユルニ至ラサルトモ兵力ニ依ラサルベカラサルヲ信スルガ故ニ全國武官派ノ聯合ヲ計画シ居ルモノニシテ已ニ南方武官派トモ聯絡シツツ居レリ(文官派ハ眼中ニナキカ如シ)

第三 余ハ時局ノ善後策ヲ講スル為未独立ノ十五省ニ対シ各省ヨリ文武各一名ノ代表者ヲ派遣セラレンコトヲ提案シタルニ唯今迄ニ直隸、湖北、江西、吉林、陝西ヲ除ク外ノ各省ヨリ之ニ応スル旨ノ回答ヲ接到シタリ會議ノ地点ハ南京若ハ徐州ナルヘキモ未タ確定セス

第四 余ハ右會議ノ議決案ニ南方ノ同意ヲ求メ然ル後中央政府ニ議決案ノ実行ヲ迫ル予定ナリ蓋シ右議決案ハ南方ノ認ムル所ナルヘク議決案ノ内容ハ各省ヨリノ提議ニ基キテ新タニ作ルベク余ニ於テハ未タ提議ノ腹案ナシ(馮ハ此談話中彼ハ現在上海ニ集合シ居ル旧国民党ノ議員ノ如キハ眼中ニナキモノノ如ク看取セラル)

第五 余ト張、倪トノ連名ニテ中央ニ電報セルハ袁ニ留任ヲ望ム意味ノモノニアラス余等ハ右電報ヲ以テ袁ハ其ノ在職中ハ國政ヲ廢スヘカラスト主張セルノミ

第六 日本ハ決シテ支那ニ対シ中立ヲ破ルモノニアラズ云々トノ多賀ノ弁解の説明ニ対シ山東將軍ハ年少ナレハ大事ニ驚キ易ク且ツ自己ノ責任ヲ中央ニ轉嫁セントスルノ傾向アリ其結果貴國官憲トモ直接ノ交渉ヲ避ケ幕僚ヲ以テ当ラシムル為自然相互間ニ誤解ト錯誤トヲ生シ易ク今回ノ紛紜

真意明ナラス唯少ナクモ彼ガ他ト協同ノ必要ヲ自覺シ来レルノ事実ハ之ヲ認ムヘシ尚ホ香港ニ宛テ廣東擾乱制止ノ電報ハ追テ内示スヘシトノコトニテ前述ノ諸電報發送ハ青木中將ニ依頼ノ答ナリ
在支公使、在廣東、香港兩總領事及太田領事ヘ電報セリ

一四〇 五月十一日 在廣東赤塚總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

軍艦ノ独立計画ニ関シ報告ノ件

第一五六号 極秘

往電第一四七号軍艦獨立運動ノ為福州ニ向ヒ当地ヲ発シタル王^{ユウ}等ノ一行ハ途中厦門ニ於テ軍艦海圻及肇^{オオチユウ}蘇ヲ発見シ直チニ上陸竊ニ艦隊司令官林葆懌艦隊參謀^{オオチユウ} 茲肇蘇艦

長杜某等ト密会シ(此際劉冠雄ハ詔安ニ赴キ不在)協議ノ結果皆悉ク南方ニ同情シ此際四拾万弗ヲ乘込ミ水兵二ヶ月分ノ給与トシテ交付スルコト竝其後ノ給料費用ハ南方政府ニ於テ支払フコトノ保証ヲ得ルコトヲ条件トシテ(脱力)

劉冠雄ハ今明日海圻ニテ厦門出發福州ニ一兩日滞在ノ上、上海ニ赴キ汽車ニテ南京ニ赴キ馮國璋ニ面会スル等ナル趣ニテ艦隊全部ハ其ノ虚ニ乗シテ上海ヲ遁ケ出シ象山(浙江

ニ於テモ亦此感アリ

第七 外國ノ干涉ハ余ハ最モ恐ルル所ナレバ余ハ出来得ル限リ速カニ時局收拾ヲ図ラントス
在支公使ヘ電報シ在濟南領事ニ郵報セリ

一三九 五月十一日 在上海有吉總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

孫文ヨリ排袁ノ意義ヲ説キタル各獨立省宛電
報案ノ件

第一一一号

昨夜孫文ハ戴天仇ヲ使トシテ本官ニ派シ岑春煊、雲貴、兩廣、浙江、各獨立省及山東、湖北、廣東、四川ノ同志ニ宛排袁ノ意義ヲ説キ一致協同ノ必要ヲ説キタル電報案ヲ示セリ岑ニ宛タルモノニハ廣東獨立以前ニ各処義軍起リ龍濟光軍ト相持ス大敵前ニアリ内紛熾マス事謂ハレナシ孫文同志ヲシテ(脱力)セシメス且事実上ノ一致ヲ^{リキキム}スヘク又濟軍ノ一方ニ告ケテ約束ヲ嚴ニセシムヘシト云ヒ同志ニ宛タル分ニハ獨立各省齊ク五色旗ヲ遵用セリ我党亦宜ク一律援用スヘシ等ノ語アリ孫カ中華革命党ヲ解散シ得サル理由トシテハ海外ニ於ケル同志ノ關係等モアルヤニ説キ居レルモ

省)ニ集マリ同地ニテ獨立ヲ宣言シ其後廣東方面ニ来ル計画ナリト云フ

右ハ今朝本官ヲ訪問シタル王^{ユウ}ノ直話ニシテ王ハ右四拾万円調達ノ件ニ付唯今龍濟光等ト協議中ナリ併シテ愈々調達出来レバ王等ハ直チニ上海ニ赴キ同地ニ於テ之ヲ軍艦海圻ニ交付スル等ナリト云フ尚ホ劉冠雄ハ袁ト離ルベカラサル關係アルヲ以テ右計画ハ全然劉ニハ秘密ニ附シアリト
北京、上海、福州、厦門、香港、肇慶ヘ電報セリ

一四一 五月十一日 在奉天矢田總領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

馮國璋ヨリ張作霖宛ニテ南京ニ於テ時局ニ関
スル會議開催ニ付賛同ヲ求メ来リタル件

第一九〇号

五月十日滿鉄公所ノ横山ガ張作霖ヲ訪問シタル際作霖ハ一昨日(八日)四川省ノ陳宦ヨリ袁世凱退位勸告ニ賛成ヲ求メタル電報ニ接シタルガ是ヨリ先馮國璋ヨリモ同趣旨ノ来電アリ(不明)昨日馮ヨリ袁世凱ノ留任勸告ノ電報ニ接シタル次第ニシテ形勢混沌全ク五里霧中ニ在ル觀アレハ自分モ未タ双方ニ対シ確定的回答ヲ發セサル実情ナリ又近來一

部識者間ニ復辟論アルハ事実ニシテ機熟スルニ於テハ自分モ賛成スル積ナルカ斯克テハ支那ヲ南北ニ二分スルコト、ナリ支那ノ前途ノ為好マシカラサルヘク其レカアラヌカ今朝馮國璋ヨリ全国二十二省ヨリ各一名宛ノ代表ヲ出シ五月十五日迄ニ南京ニ集合シ時局ニ関スル會議ヲ為ス計画ヲ立テ賛成ヲ求メ来レル処自分ハ從來ノ行懸モアリ馮國璋、張勳ト行動ヲ共ニシタシト存シ居ルニ付于冲漢ヲシテ右代表トシテ南京ニ赴キ一面馮張トノ意思ヲ疏通シ其ノ真意ヲ確メシメント存スル旨ヲ内話シタル由ナルカ後横山ニ於テ于冲漢ニ確メタルニ于ハ會議ト云ヘハ多数決ニテ少数者ノ意見ヲ屈服拘束スヘク到底奉天省ヲ代表シテ主張ヲ為スコト能ハサルヘキニ付辞退スル考ナリト語リタリ昨夜(?)袁金鎧ハ作霖ノ旨ヲ受ケテ于ヲ訪問勸誘シタルモ未タ于ノ承諾ヲ得サリシ由ナリ尚于ハ愈々行クトスレハ先ツ張勳ヲ訪問シテ時局ニ関スル意見ヲ交換シ其ノ意見ヲ作霖ニ打電シテ南京ニ赴クヤ否ヤヲ決定スル筈ナルカ何分時局モ切迫シ居レハ今明日中ニ確答セサルヘカラスト語リタル由御参考迄

公使ヘ電報セリ

一四三 五月十三日

在雲南壩領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

孫文ハ唐都督ニ対シ南方ト共同ノ行動ヲ取ル

ベキ旨報シタル件

第七七号

最近孫文ヨリ唐都督ニ対シ南方ト全然共同ノ行動ヲ取ルヘキ旨報シ来リ唐ハ右ニ対シ謝電ヲ送リタル由ナリ然レトモ唐ハ孫派ニ対シ信頼ノ念極テ薄シ

上海濟ミ

一四四 五月十七日

在中国日置公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

西安ガ革命軍ニ依リ占領サレタル模様ナル件

第四四〇号

往電第四三〇号西安動乱ニ関シ五月十七日周家彦カ陸軍当局者ヨリ伝聞スル所ナリトテ船津ニ内報スル所ニ依レハ西安目下全然革命軍(陳鎮守使?)ノ為メニ占領セラレ(月日不詳)陸將軍ノ行衛モ不明ナリ山西將軍閻錫山ハ平素巡按使金永トノ折合甚タ惡シク今回陝西動乱ノ影響ヲ受ケ太原方面モ昨今稍々動揺ノ徴アルニ付政府ニテハ目下該地方

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 (附) 一四三 一四四 一四五

一四二 五月十三日

在天津松平總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

中国時局ニ関スル北京天津タイムス論說報告
ノ件

第四三号

十三日ノ北京天津「タイムス」ハ支那ノ時局ニ関シ今日程危機ニ瀕シタルコトナシト云ヒ國務院ニヨリ中国交通兩銀行ノ兌換停止ヲ命シタル結果ハ自然財政上ノ恐慌ヲ惹起スヘク若シ國庫窮乏ノ結果此処置ニ出テタルモノトスレハ引テ北支一帯ニ於テ兵變ノ起ルヤモ保シ難ク若シ銀貨ヲ軍隊支払ノ為メニ用ユル結果ナリトスルニ於テハ全国ヲ通シテ未曾有ノ財政上ノ恐慌ヲ惹起スヘシ國務院令中ニハ歐洲ニ於ケル「モラトリアム」ノ先例ヲ引照セルモ支那今日ノ状態ハ全ク異リ結局徒ラニ一般ノ不信用ト反感ヲ招クニ過キスト非難シ袁世凱ハ早晚退位ノ已ムナキニ至ルヘキヲ以テ無政府状態ノ継続ヲ避クル唯一ノ望ハ列國共同速カニ黎元洪ヲ大總統トシテ認ムルヨリ外ナシト論セリ

(奉天発 十四日、前二、二〇)

面ノ鎮定方ニ関シテモ大ニ焦慮シ居ル模様ナリト云フ
漢口總領事ヘ転電セリ

一四五 五月十八日

在肇慶太田領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

岑春煊等ノ海軍買収計画ニ関シ報告ノ件

第三八号

岑春煊ハ在上海唐紹儀、鈕永建、谷鍾秀ヨリ海軍買収ニ関シ前海軍總司令李鼎新出テ、其局ニ当ルコトヲ承諾シ人ヲ派シテ各艦ト密議セシメツ、アレハ多分成效スヘシ依テ一、軍政府ニテ相当ノ名義ヲ以テ李ヲ任命スルコト二、將來俸給其他ノ經費一ヶ月十五萬元ヲ出スヘキコト三、各艦長ヲ現位地ニ留メ置クコト等ニ関シ承諾ヲ求ム若シ右承諾セラルルニ於テハ大局ニ関スルコト大ナルニ付至急國務院ヨリ李ヲ海軍總司令ニ任命セラレタシトノ来電ニ対シ本日本官ヲ経テ右条件全部ヲ承諾シ李鼎新ヲ海軍總司令ニ任スル旨並ニ月額十五萬元ハ差当リ在上海興華銀行支店ヨリ融通セシメラレ度旨ヲ返電セリ

北京、天津、広東、香港ヘ転電セリ

一四六 五月十八日 在上海有吉総領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

陳其美仏国租界内山田宅ニ於テ狙撃セラレ生
命危篤ナル件

第一三〇号

本日夕刻仏国租界山田純三郎住宅ニ於テ陳其美支那人ノ為
ニ狙撃セラレ生命覺束ナク本邦人佐々木大助夫人負傷犯人
ハ遁亡セリトノコトナリ委細郵便
在支公使へ電報セリ

一四七 五月十九日 在上海有吉総領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

陳其美暗殺事件ニ関シ報告ノ件

第一三二号

往電第一三〇号ニ関シ陳其美ハ即死シ之カ死体ハ昨夜深更
当館員立会臨検ノ後山田宅ヨリ本人住宅ニ移セリ同人ノ暗
殺ハ予メ巧ニ計画セラレ居リタルモノ、如ク広西某石炭公
司ヨリノ借款ヲ餌トシ許国霖ナル者全ク事情ヲ知ラサル中
日公司ノ社員ニ対シ鉦山調査等ノ打合ノ要アリト欺キ山田
宅ニ同道シ陳其美ト会見中予テ準備アリタリト認メラル、

自分ガ人民ノ希望及各省ノ意嚮ヲ連想シテ觀察スルニ第二
案ハ最モ妥当ナルヘシト信ス

二、右ノ議決ヲ前提トシテ其他ノ条項ハ議セラル、都合ナ
レハ會議ノ終結迄ニハ少クトモ今後二週間ヲ要スヘシ
三、會議ハ十七日ニ第一回十九日ニ第二回開カレ而シテ本
日第三回開カル、管ナルガ右第一項ノ案件ハ本日ニテ議定
セラル、ナラン

四、蔣雁行ハ発言権ヲ与ヘラレザルモ傍聴ヲ許サレ居レリ
五、南方独立省及浙江省ヨリモ当地ニ密使来リテ各省代表
ヲ訪ヒ會議ノ模様ヲ探聞シ居ル者アリ

六、往電第一〇三号張勳ノ来着セザル理由ハ或ハ其養子及
阮忠樞ノ然カラシメタルコトナルベキモ亦山東ノ時局ニモ
関連スルコトナルベシト思考ス

同日午前多賀ノ聞キタル將軍府劉參謀ノ談

七、會議ノ傍聴者ハ右蔣以外將軍府參謀長道尹外一名ナリ
八、會議ニハ四川陝西外予定ノ代表者悉皆出席セリ

九、江西山西山東直隸等ハ馮ノ意見タル袁辭職説(国会開
設後ノ退位ナルベシ)ニ賛成シ留任意見ヲ有スルモノ二三
省アルモ其他ハ同意スル見込アリ

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 (附) 一四九 一五〇

同類ノ刺客数名ヲ誘ヒ入レ突然拳銃ニテ乱射陳其美ヲ斃シ
日本人下婢一名(打撲傷)ヲ傷ケ尚遁走ノ際、日本婦人
一名ヲ負傷セシメ支那人ニモ一名即死ノ外数名ノ負傷者ヲ
出セリ犯罪關係者ト認メラル、許国霖及劉基等三四名ハ其
後逮捕セラレタル趣ナリ
公使へ電報セリ

一四八 五月二十日 在南京高橋領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

南京會議ノ模様ニ関シ報告ノ件

第一〇四号

金鼎ガ會議ニ列席シタル人ヨリ聴キタル所ナリトテ二十日
清野ニ為シタル談話

一、對袁問題ハ第一直ニ退位セシムベシトスルモノ第二旧
約法ニ準シ今ヨリ七ヶ月後ニ退位セシムヘシトスルモノ第
三新約法ニ基キ今後尚五ヶ年留任セシムヘシトナスモノ、
三派ニ分レ第一案ハ南方ノ主張ナルガ今回ノ會議ニ於テ之
ヲ主張シタルモノハ湖南ノ外他ニ一省アルシク第三案ノ
主張者ハ張勳倪嗣冲派ニシテ其他ハ第二案ニ賛成スルモノ
ノ如クナルモ言辞頗ル婉曲會議ハ靜穩ニ進捗シツツアリ尚

十、倪ハ十九日ノ會議ヨリ出席セルモ意見ハ不明ナリ

十一、張勳ハ未着ナルモ馮トノ協定ヲ無視シテ本月十二三
日頃袁ニ向テ留任勸告打電セシモノナレバ直ニ馮ノ案ニ同
意スルヤ否ハ疑問ナリ

十二、張倪ハ同一態度ヲ取ルナラント思考セラル

北京ニ電報シ蘇州ニ郵報セリ

一四九 五月二十一日 在南京高橋領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

南京會議ニ於テ多数ヲ以テ平和解決ヲ決議ノ

件

第一〇六号

將軍府參謀ノ談ニ依レバ昨二十日ノ會議ニテ多数ヲ以テ平
和解決ヲ決議セリ即チ国会ヲ開キ新大總統ヲ選舉スベク夫
迄ハ袁世凱ヲ留任セシムル訳ナリ

北京上海へ電報セリ

一五〇 五月二十二日 在中国日置公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

陝西省ノ独立宣言ニ関スル新聞所報ノ件

第四五九号

西安府五月十四日發電トシテ二十二日当地路透ハ陝西省ハ既ニ独立ヲ宣言シ且下官革兩軍ハ戰鬪ヲ停止シ兩者ノ間ニ商議進行中ナル旨ヲ報セリ又五月二十二日当地新聞紙ハ去ル十七日總統府統率辦事処ニ達シタル陝西護軍使陳樹藩ノ独立宣言書ナルモノ發表セラレタリ右宣言書ハ五月十一日附陳樹藩ノ名ヲ以テセラレ内ニ陝西省人民ガ袁氏ノ貪冒行為ニ對スル積怨深ク一タビ發シテ已ムナク郡邑頻リニ陥リ遠近騒然タリ加フルニ陸將軍部下ノ到ル處擾亂更ニ甚シク同種相傷ヒ人道ニ悖ルヲ以テ樹藩情已ムコトヲ得ス五月九日ヲ以テ蒲城ニ在リテ陝西護國軍總司令ノ名義ヲ以テ正式ニ独立ヲ宣布シ以テ和議ノ進行ヲ促カシ我陝西省ノ治安ヲ図ルヲ期ス風声一タビ立テ 全ク己レニ歸ス今既ニ軍ヲ三原ニ駐メ陸將軍ト切實ニ交渉スル所アリ云々トアリ

一五一 五月二十三日 在南京高橋領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

南京會議經過報告ノ件

第一〇八号

鎮守使ノ談ニ依レハ會議ハ二十二日ニテ一段落トナリ同日南方ニ向ヒ何事カ電報ヲ發シ其ノ到着ノ日ヨリ三日ヲ限り

曹錕ノ態度ニ関シテハ同交渉員ハ曹ハ周鎮守使ト共ニ独立ハナサズ目下觀望中ナリ又重慶市民ノ意見ヲ聞キタルニ市民ハ只治安ヲ維持スルヲ得バ独立スルトセザルトハ問フ処ニアラズト答ヘタリト云ヘリ
在支公使ヘ電報セリ

一五三 五月二十四日 在雲南彌鎮領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

重慶周辺ノ戰況ニ付報告ノ件

第八六号

廿三日唐ノ談左ノ通り

第一軍第一梯團ハ雷颺團長トナリ叙州ヲ去リテ自流井ニ入レリ叙州ハ第二梯團代リテ占領セリ右ハ陳宦蔡鐸間ノ妥協繼續シ且一分陳宦ノ獨立運動進捗シツ、アルヲ示スモノノ如キモ瀘州未タ敵手ニアル今日蔡カ陳ノ言ヲ過信シテ北方ニ深入リスルコトハ危險ニ感セラル瀘州ハ依然北軍ノ手ニ在リ而シテ曹錕ハ態度極メテ強硬ニシテ陳宦獨立セハ重慶ヲ燒キ払フヘシト揚言シツ、アル由ナリ就テハ貴陽ヲ發セシ張正基軍カ二三日内ニ蔡鐸ノ麾下ニ合スルヲ俟チ瀘州方面ニ南北軍ノ開戦ヲ見ルニ至ルヘシ云々

回答センコトヲ促セリト右ハ往電第一〇七号所報二十日發セラレタルカ如ク了解セラレタル電信ノ未タ發セラレスシテ同日發セラレタルコトナルヤ將タ別種ノモノナルヤ未タ明知スルヲ得ス又同人ハ近省ノ代表者中ニハ一応歸リ行クモノモアルヤニ云ヒタルカ交渉員ノ言ニ依レハ倪嗣冲ハ丰埠ニ歸リタリト尚將軍府參謀長ハ二十一日既ニ歸レリト御參考迄ニ

北京ニ電報シ上海ニ郵報セリ

一五二 五月二十四日 在重慶清水領事代理ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

陳將軍ノ四川獨立宣言及曹錕ノ態度ニ付報告

ノ件

第六九号

今二十四日曹錕司令部ノ徐交渉員ノ來談ニ依レハ陳宦ハ昨二十三日午前十二時獨立ノ宣言ヲ為シタリト云フ夫レニ付同人ハ陳宦既ニ獨立シタレバ各國領事ノ交渉事件ハ曹錕ノ司令部ニ於テ処理スルヲ機宜ニ適シタルモノト信ズル旨述ヘタリ本官ハ之ニ関シテハ追テ回答スル筈ナガラ此場合總テノ交渉事件ハ目下曹錕ト交渉スル外ナカルヘシト信ス

往電第八三号黃毓成軍ハ大部分出發セリ黃自身ハ尚其一部支隊カ臨安ヨリ歸來スルヲ俟チ出發スヘシ黃叙州行ハ往電第八〇号蔡唐兩人ノ意見ノ折衷トシテ行ハレタルモノナリ
公使済ミ

一五四 五月二十四日 在南京高橋領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

南京會議ニ関スル馮國璋談話報告ノ件

第一一〇号

馮カ二十三日多賀ニナシタル談話ノ要領

一、十七日より會議ヲ重ナルコト四回ニテ其ノ第四回ノ會議ハ二十二日ナルカ結局袁ハ国会組織後ニ於テ辭職セシムルコトニ決定セリ(イ)絶對ニ袁ノ退位ヲ非トセルモノハ倪嗣冲一人ナリ(ロ)即時ニ袁ヲ退位セシムヘシト主張シタルハ湖南山東二省ノ代表者ナリシ(ハ)其ノ他ハ大体馮ノ意見ニ賛同セリ(ニ)第四回ノ會議ニテハ湖南ノ代表者陳裔時ト倪嗣冲ト衝突激論セシモ馮ハ之レヲ仲裁シテ漸ク纏ムルコトヲ得タリ

二、決議ノ結果ハ即日(二十二日)獨立各省ニ電報シテ代表者ヲ出スコトヲ求メタルカ或ハ応セサルヘキカヲ顧慮シ

尚其ノ応諾ヲ促スタメ或省(四川?)ヘモ電報セリ
三、梁啓超ハ代表トシテ二十一日上海ニ著セル由承知セルヲ以テ二十二日胡某ヲ上海ニ派遣セシカ梁ハ上海ニテ或ル者等ニ其ノ来寧ヲ抑止セラレ居ラスヤト疑ハル又籍忠寅ヲシテ二十一日上海ニ赴カシメタリ
四、此ノ決議ニ対シ独立省側ニテ承諾ヲ与フルトキハ更ニ南北協議スルコトトナルヘシ
五、倪嗣冲ハ會議ノ一段落ト軍務多忙ノタメ帰任セルモノナリ
六、張勳ハ表面意見ヲ發表セサルモ大体ニ於テ馮ト同意見ナリト
七、張作霖ハ主トシテ張勳ノ意見ヲ聞クナラン
八、張勳ノ来会セサルハ山東不穩ノタメニシテ他ニ意味アルニアラス
九、国会組織後ニ於テ袁ヲ退位セシムル迄ニハ約一ケ年ヲ要スヘキカ三ヶ月ハ諸準備ニ五六ヶ月ハ議員ノ召集ト議會ノ組織ニ三ヶ月ハ袁ノ退位ニ伴フ措置トシテ此ノ期間ハ稍々長キ様ナルモ南北ノ戦争ナケレハ自然ニ秩序モ恢復シ從テ外国ノ干涉モ招カサルヘシ

召集スルコト(三)現總統問題ハ国会ニ依リ解決スルコト(四)国会未タ成立セサル以前ニ在リテハ袁氏暫ク現状ヲ維持スルコト等ニシテ其ノ他尚禍首懲辦ニ関スル条項等アリ当日段祺瑞ハ右ノ次第ヲ袁氏ニ提出シ昨二十三日正午總統府ニ於テ臨時會議ヲ開キタル所河南派ハ退位ヲ小站派ハ主戰說ヲ主張シ爭論頗フル激烈ナリシモ袁ハ財尽キ兵尽キ實際維持シ難シトテ之レヲ反駁シ並ニ自カラ須ク退位スヘント断言シ只退位手續及善後策ニ関シテハ尚南京會議ヲシテ適當ナル善後策ヲ講セシメンコトヲ請フ若シ然ラスンハ決シテ引退セスト陳ヘタリト云フ昨晚段祺瑞ニ面会シ該會議ノ模様ヲ聞キタルモノ(王印川)ノ言ニ依レハ段ノ意ハ南人ノ退位手續ニ対シ甚苛酷ナラサルヲ宜トス若シ苛酷ナラハ退位ハ速カニ期シ難シトナスニ在リ此間同人モ亦頗フル段ノ意ニ賛成ス諸公熟商速カニ寧垣当局ト接洽スルヲ要トナス(二十四日)

一五六 五月二十五日 在上海有吉總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

馮国璋ノ態度ニ関スル唐紹儀張繼等談話ノ件

第一四五号

一 袁世凱ノ帝制計画ニ関スル件 (附) 一五六

往電第一〇八号鎮守使ノ云ヘル三日間ヲ限り回答ヲ促セリトノ事カ若シ事實トセハ右ハ恐ラク其ノ回答遷延ノタメ各代表者ヲ何時迄モ空シク滞在セシムルコトヲ予防スル手段カトモ考ヘラル兎ニ角各地ノ鎮守使モ會議列席者ノ一人ナレハ其ノ云フ所ハ必スシモ虚構ノコトノミト見ルヘカラサルヘシ
北京ヘ電報シ上海ヘ暗号ノ儘郵送セリ

一五五 五月二十五日 在上海有吉總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

南京代表者會議決議案ニ対シ北京政府ハ臨時會議ヲ開キ討議シタル件

第一四四号

北京発上海宛第五四号

藤田ヨリトシテ極内密ニ唐紹儀孫洪伊汪鳳年ニ左ノ通伝ヘラレ參考トシテ外務大臣ヘ転電シ在南京領事ヘ郵報シ置カレタシ

國務院ハ南京代表者會議決議案ヲ二十二日晚接手セリ其ノ内容ハ馮国璋ノ調停案八ヶ条ニ関スル決議ナルモ其ノ変更セラレタル重要条項ハ(一)旧約法ヲ復活スルコト(二)旧国会ヲ

南京會議ノ結果ノ不得要領ニシテ馮国璋ノ態度ノ依然曖昧ナルハ排袁派ノ一部ハ勿論中外人ニ多少ノ失望ヲ与ヘタルモノト認メラレ唐紹儀ハ同會議ニハ始ヨリ余リニ重ヲ措キ居ラス單ニ其ノ結果ニ見テ更ニ態度ヲ決スヘキノミトシ居リ張繼ハ同會議ハ時局解決ニ一步ヲ進メス却テ事ノ紛糾ヲ来サレタリト云ヒ馮国璋ノ南方ニ意ナク北方ニ加担セルコト明白トナレリトシ此ノ上ハ浙江ヲ強クシテ馮ヲ牽制スルコト肝要ナリト説キ居リ王寵惠ハ馮カ倪嗣冲ニ牽制セラレタル結果ナリトシ其他何レモ多少失望ノ語氣アリ英國總領事ハ同會議カ予テ唐紹儀等ヨリ内聞セル如キ袁退位ノ決議等明確ナル決定ヲ見ス不得要領ニ終リタルコト甚タ遺憾トシ馮ト段祺瑞トノ間柄ニ見先ツ段ノ失墜ヲ見タル後態度ヲ決シ自ラ大總統ノ重位ヘ上ランコトヲ希望セルニアラスヤ杯臆測シ頻リニ時局ノ益々紛糾スルコトヲ嘆シ居タリ尚張繼ノ語ル所ニ依レハ馮ハ独立各省ニ私電ヲ送り速ニ委員ヲ派遣セヨ袁退位問題等ハ直ニ決定スヘシトノ意味ノ電報ヲ発セリトノコトナリ
公使ヘ電報セリ

一五七 五月二十九日 在長沙堺領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

湖南ノ独立宣言ニ関シ報告ノ件

第九一号

本二十九日午前八時ヲ以テ湯將軍ハ湖南ノ独立ヲ宣言シ湖南都督等ノ名義ヲ以テ袁政府ヲ離レテ独立スル旨ノ告示ヲ唯今各処ニ貼付シツツアリ支那(脱)各戸国旗ヲ掲ケテ祝意ヲ表シ極メテ平穩ニテ何等騷擾ノ模様ナシ
奉天及在支公使及在支各領事(間島滿州ヲ除ク)ヘ転電セリ

一五八 六月一日 在漢口瀕川總領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

田桐ノ湯將軍トノ湖北独立ニ関スル打合及武

漢警備ノ軍艦買収等ニ付報告ノ件

第二一一号

最近湖南独立ノ報当地ニ伝ハルヤ田桐ハ直ニ使者ヲ湯將軍ノ許ニ遣ハシ湖北独立ニ関スル打合ヲナスト同時ニ差当リ軍資金トシテ六萬元ノ調達ヲ請ヒ而シテ武漢警備ノ軍艦買収ニ着手シ三拾日来既ニ艦隊側ノ代表者ト会见シテ密議ヲ

ノ当地新聞ノ二三ニハ別電ノ通り掲載シ居ルモ事實ノ真相尚ホ未タ明ナラス次ニ山西省動搖ノコトハ略ホ事實ナルガ如ク從來晋北鎮守使孔庚ハ独立ノ意志ヲ有シタルモ綏遠張家口等ノ官軍ヨリ三面挾撃ヲ受クルノ危険アリ逡巡未タ決セサル内中央政府ニ喚付ケラレ急ニ山西將軍府參謀長ニ転任ヲ命セラレ同時ニ將軍閻錫山ノ意嚮モ明ナラザルヲ以テ其副官ヲ北京ニ派遣シ中央ノ情況ヲ偵察セシメ同時ニ南方ニ落延ブル方法ヲモ講ゼシメツ、アル由ナリ

然ルニ目下山西省太原ニ於テハ閻將軍ト金巡按使トノ間ニ軋轢アリ金ノ態度カ北京政府側ニ傾キ居ル關係上將又第一革命ノ際ニ於ケル經歷上閻モ漸ク独立ノ下心ヲ有シ始メタルヤニテ昨今ハ急ニ孔庚ヲ督促シ其來任ヲ促シツ、アル由ノ報道アリ旁々孔庚ノ著任ノ上ハ或ハ山西独立ノ氣運ヲ促進スルモ計リ難シトスルモノアリ尚最近ノ情報ニ依レハ陝西革命軍ノ一部ハ既ニ境ヲ越エ山西ノ西部一帯ニ侵入セル由此報道ニシテ事實トスレバ山西ノ独立ハ早晚事實トシテ現ハレンカト想像セラル在天津駐屯軍司令部ヨリ偵察ノ為メ人ヲ山西ニ派遣シタレバ近々何等カ稍確報ニ接シ得ヘシト信ス貴電末段ニ関シテハ既ニ電報スミ

擬ラシ又荊州駐在ノ師團長不星川ノ密使モ來リテ日々会见シ居ルト云フ聞クトコロニ堀レバ孫文ガ日本ヲ去リシ以來田桐ハ資金ヲ得ルノ途ヲ失ヒ何等運動モ出來サルトコロ湯將軍トハ元來相識ノ間柄ナルヲ以テ直ニ其援助ヲ求メタルモノニシテ若シ湯將軍ニシテ金錢上ノ援助ヲ与フルニ至ラハ田桐一派ノモノハ再ヒ当地ニ於テ活動ヲ始ムルニ至ルヘシ

一五九 六月三日 在中国日置公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

新疆方面ノ情勢及山西省ノ動搖ニ関シ報告ノ件

別電 同日在中国日置公使發石井外務大臣宛第五〇〇号

新疆ノ情勢ニ関スル件

第四九六号

貴電第一八九号新疆方面ノ事ニ関シテハ数日前ヨリ当館ヘモ同様ノ情報達シ居リタルモ「コンファム」サレザリシヲ以テ電報セザリシ次第ナリ其後露国公使館ニ問合セタルモ伊犁方面及迪化等ニ駐在ノ露国官憲ヨリハ何等ノ報道ニ接セズト云ヒ又支那官邊筋ニテモ之ヲ打消シ居レリ六月一日

天津上海広東漢口濟南南京雲南肇慶香港転電セリ
(別電)

六月三日在中国日置公使發石井外務大臣宛電報

第五〇〇号(第四九六号ノ別電)

新疆將軍楊增新ハ其弟増ヲ代表トシ來京セシメ君主立憲ニ賛成セリ帝政取消後ハ何等消息ヲ聞カサリシニ近ク各省紛々独立セルヨリ伊犁鎮守使楊飛霞モ亦独立ヲ宣言シタリト云フ楊鎮守使ハ楊將軍ノ一手ニ引立テタル人物ナリ故ニ日前中央政府ハ電報ニテ詰問セルモ返電ナク其弟モ亦数日前既ニ出京セリト云フ外間ノ風説楊ノ態度ニ疑アリトスル所以ナリ

一六〇 六月五日 在南京高尾領事ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

南京會議其後ノ成行大要報告ノ件

第一一五号

五月五日着任挨拶ノタメ不取敢交渉員ヲ訪問ノ際ニ於ケル同人ノ談並ニ本官著任後宴会ノ席上ニ於テ鎮守使道伊參謀長等ヨリ聴取セル談片及数日来多賀中佐ノ齋ラセル馮將軍ノ直話等ヲ綜合スルニ南京會議其ノ後ノ成行大要左ノ通

(一) 南京會議ノ不成功ハ馮將軍ノ立場ヲ益々困難ナラシメタルモノニシテ殊ニ張勳倪嗣沖ノ手ヨリ極端ニ會議ノ目的ヲ蹂躪セラレタル一事ハ各省代表ニ対スル面目上尙又中央ニ対スル自己ノ立場ニ顧ミ甚タ堪ヘ難キ所ニシテ日夜煩悶シツ、アリ未タ何等ノ術策ヲモ案出セサルモノノ如シ

(二) 張勳ハ倪嗣沖ト連名ニテ最近徐州ヨリ馮將軍ヘ電報ヲ寄セ同地ニ於テ重ネテ代表會議ヲ開クヘキニヨリ南京ヨリモ代表ヲ派遣セラレタキ旨ヲ申越セルモ馮ハ一応承諾ノ旨ヲ答ヘタルノミニテ未タ何等ノ措置ヲモ執ラス蓋シ張ノ意ハ袁ヲ据置キ武力解決ニ出ントスルニ在ルハ謂フ迄モナシ

(三) 一説ニハ又李埠ニ於テ張勳ノ代表李某ト北京ヨリ来レル阮忠樞ト相会シ中央擁護袁据置ノ主義ヲ決シ南京會議ヲシテ之レヲ承認セシメント企テツ、アリトモ伝ヘラルル所中央擁護ハ兎モ角袁ノ据置ニハ何人モ同意セラルヘシ

(四) 北京政府カ武力解決ニ決セリトノ報道ハ上海ヨリ馮將軍ノ許ニ達シタルハ事実ナルモ馮ハ之レヲ謠言ナリトシ

事項二 袁世凱死去後ノ对中国政策ニ関スル件

一六一 六月六日 在中国日置公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

袁世凱危篤ニ付応急ノ処置方考慮アリタキ旨
稟申ノ件

第五〇七号 極秘至急

六月六日午前九時仏国公使ヨリ極内密ノ報道トシテ袁世凱ハ既ニ危篤ニ陥リ何時絶命スルモ計リ難ク總統府ハ昨夜ヨリ大混雜ノ模様ニテ近侍ノ者共ハ多分動乱發生ヲ予期シテカ公使館区域ニ逃ゲ支度ヲ為シツアル旨申越セリ
右ハ過日来袁ノ治療ニ從事シ居ル仏国医師ヨリ承知シタルモノラシク最早袁ノ生命ハ旦タニ迫リ居ルハ事實疑ナカルベシ就テハ追テ本使ヨリ意見ノ廉申出ノ次第アルベキモ此ノ突然ノ事態ニ対スル応急ノ処置方速ニ帝國政府ニ於テ考慮ヲ尽サルノ要アルヘシト信ス目下ノ処何等ノ変象ナキモ一旦急報ノ發表セラル、ニ至ラハ人心ノ動揺軍隊ノ叛乱等一時騒擾ヲ見ルコトナキヤト懸念セラル(終リ)

テ信シ居ラス

(四) 当地ノ各代表ハ順次引揚ケツ、アリ其ノ津浦線ニ依ルモノハ徐州ノ張勳ニ引留メラレツ、アルモノノ如シ

(五) 湖南ノ独立ハ湯將軍カ張勳等ノ圧迫ト南方側ノ要請トニ板挿ミトナリ已ムナク一時ノ方便トシテ宣言ヲ行ヒタルモノニシテ現ニ湯ヨリハ右ノ趣ヲ申越シ裏面ノ連絡ヲ保チツ、アリ

(六) 浙江ノ呂公望ハ馮ノ門下生タリシ關係モアリ兩者ノ間ニハ依然脈絡ヲ通シツ、アリ

(七) 当地中国銀行ニ於テハ馮將軍ヨリ三十万弗ヲ支出シ兌換準備ニ充テシメタルタメ同行ノ紙幣ハ依然通用シ居ルモ他地方トノ為替ハ全部不能ニシテ殊ニ硬貨ハ五十弗以上他地方ヘ持チ去ルコトヲ禁シ居ルタメ商業取引ハ全ク中止ノ姿ナリ

叙上ノ内容ニ付テハ著任早々研究ノ遑ナク真偽俄カニ判断シ難キモ不取敢御参考迄ニ電報ス尚本官ハ兩三日中ニ馮將軍等ニ会见シ真相突止メ方ヲ試ムヘシ

北京ニ電報シ上海濟南ヘ郵報セリ

一六二 六月六日 在中国日置公使ヨリ
石井外務大臣宛(電報)

袁世凱死去ノ場合ニ処スベキ善後策ニ付英、
仏、露、白、伊各国公使ト協議申合ノ件

第五〇九号 極秘

六日午前十時半頃英仏兩公使本使ヲ来訪シ袁世凱死去ノ場合ニ処スベキ善後策ニ付協議ヲ為シ露白伊三国代表者ヲモ当館ニ招キ不取敢応急ノ措置トシテ左ノ通申合セタリ

(一) 成ルヘク速ニ六国代表者ヲ打揃ヒテ段祺瑞ヲ往訪シ愈々袁死去ノ場合ニ如何ナル措置ニ出ヅル決心ナルヤヲ突止メ尚六国代表者ノ意見トシテハ黎元洪ヲ大總統ニ就任セシムルコト正当ト思料スルニ付右ニ依リ時局ニ処スヘキ最善ノ手段ヲ講セラル、様切望スル旨申入ルルコト

(二) 直ニ北京守備隊長會議ヲ開カシメ万一動乱發生ノ場合外人保護ノ方法ヲ講究セシメルコト

(三) 右會議ノ半バニ袁世凱死去ノ内報ニ接到セリ

將又英仏兩公使ヨリ本使ニ向テ此ノ場合出来得ル限速ニ北